

(案)

# プレチラクロール 農薬使用者安全評価書

2025年3月6日

農業資材審議会農薬分科会

農薬使用者安全評価部会

## 目 次

<経緯> .....	2
<農薬使用者安全評価部会委員名簿> (第19回) .....	2
I. 評価対象農薬の概要 .....	3
1. 有効成分の概要 .....	3
2. 有効成分の物理的・化学的性状 .....	4
3. 申請に係る情報 .....	5
4. 作用機作 .....	5
5. 適用病虫害雑草等の範囲及び使用方法 .....	5
II. 安全性に係る試験の概要 .....	6
1. 動物代謝 (資料2~6) .....	6
2. 毒性試験の結果概要 .....	12
3. 公表文献における研究結果 (資料57~59) .....	22
4. ヒトにおける知見 .....	24
4-1. 疫学研究 .....	24
4-2. 中毒事例 (ヒト) (資料61) .....	24
III. 農薬使用者暴露許容量 (AOEL) .....	25
IV. 急性農薬使用者暴露許容量 (AAOEL) .....	29
V. 暴露量の推計 .....	30
1. 経皮吸収試験 .....	30
2. 圃場における農薬使用者暴露 .....	30
3. 暴露量の推計 .....	30
VI. リスク評価結果 .....	30
評価資料 .....	31
別紙1 代謝物記号 .....	35
別紙2 用語及び略語 .....	37

<経緯>

令和5年(2023年)12月15日 農業資材審議会への諮問(再評価)  
令和7年(2025年)3月6日 農業資材審議会農薬分科会農薬使用者安全  
評価部会(第19回)

<農薬使用者安全評価部会委員名簿>(第19回)

(委員)

櫻井 裕之

美谷島 克宏

(臨時委員)

上島 通浩

(専門委員)

相崎 健一

石井 雄二

小坂 忠司

成田 伊都美

# プレチラクロール

## I. 評価対象農薬の概要

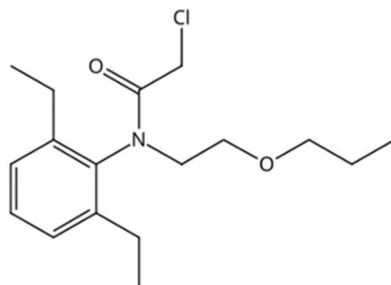
### 1. 有効成分の概要

- 1.1 申請者 シンジェンタジャパン株式会社
- 1.2 登録名 プレチラクロール  
2-クロロ-2',6'-ジエチル-N-(2-プロポキシエチル)アセトアニリド
- 1.3 一般名 pretilachlor (ISO)
- 1.4 化学名  
IUPAC 名 : 2-chloro-2',6'-diethyl-N-(2-propoxyethyl)acetanilide  
CAS 名 : 2-chloro-N-(2,6-diethylphenyl)-N-(2-propoxyethyl)acetamide  
(CAS No. 51218-49-6)
- 1.5 コード番号 CGA26423

### 1.6 分子式、構造式、分子量

分子式  $C_{17}H_{26}ClNO_2$

構造式



分子量 311.85

## 2. 有効成分の物理的・化学的性状

試験項目	純度 (%)	試験方法	試験結果																														
色調・形状	99.2	目視	ごくうすい黄色・液体																														
臭気	99.2	官能法	無臭																														
融点	99.2	92/69/EEC, A.1	-72.6 °C																														
沸点	99.2	OECD103	測定不能 (195 °C以上で分解)																														
密度	99.2	OECD109	1.079 g/cm <sup>3</sup> (20 °C)																														
蒸気圧	99.2	OECD104	6.5 × 10 <sup>-4</sup> Pa (25 °C)																														
熱安定性	96.0	OECD113	150 °Cまで安定																														
溶解度 有機溶媒	水	99.2	OECD105	74 mg/L (25 °C)																													
	ヘキサン	96.0	5~95 (v/v)%溶液を調製し、 混和を目視で確認する	任意の割合で混和 (25 °C)																													
	トルエン																																
	ジクロロメタン																																
	アセトン																																
	メタノール																																
	オクタノール																																
	酢酸エチル																																
解離定数 (pK <sub>a</sub> )	99.2	OECD112	pH 2~12で解離しない																														
1-オクタノール/水分係数 (log P <sub>ow</sub> )	99.2	OECD107	3.9 (25 °C)																														
加水分解性	98.7	OECD111	安定 (50 °C、5日間、pH 4、pH 7及びpH 9)																														
水中光分解性	>97	EPA 161-2	安定 (pH 7、25 °C、15日間、36.79 W/m <sup>2</sup> 、 290~400 nm)																														
紫外吸収 (UV) スペクトル	99.2	<table border="1"> <thead> <tr> <th>極大吸収波長 (nm)</th> <th>吸光度</th> <th>モル吸光係数 (L mol<sup>-1</sup> cm<sup>-1</sup>)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">中性</td> </tr> <tr> <td>220</td> <td>0.5739</td> <td>12110</td> </tr> <tr> <td>230</td> <td>0.2182</td> <td>4604</td> </tr> <tr> <td colspan="3">酸性 (メタノール/1 mol/L HCl水溶液 (90/10(v/v)))</td> </tr> <tr> <td>220</td> <td>0.5651</td> <td>11925</td> </tr> <tr> <td>230</td> <td>0.2145</td> <td>4526</td> </tr> <tr> <td colspan="3">アルカリ性 (メタノール/1 mol/L NaOH水溶液 (90/10(v/v)))</td> </tr> <tr> <td>220</td> <td>0.5450</td> <td>11500</td> </tr> <tr> <td>230</td> <td>0.2153</td> <td>4543</td> </tr> </tbody> </table>		極大吸収波長 (nm)	吸光度	モル吸光係数 (L mol <sup>-1</sup> cm <sup>-1</sup> )	中性			220	0.5739	12110	230	0.2182	4604	酸性 (メタノール/1 mol/L HCl水溶液 (90/10(v/v)))			220	0.5651	11925	230	0.2145	4526	アルカリ性 (メタノール/1 mol/L NaOH水溶液 (90/10(v/v)))			220	0.5450	11500	230	0.2153	4543
		極大吸収波長 (nm)	吸光度	モル吸光係数 (L mol <sup>-1</sup> cm <sup>-1</sup> )																													
		中性																															
		220	0.5739	12110																													
		230	0.2182	4604																													
		酸性 (メタノール/1 mol/L HCl水溶液 (90/10(v/v)))																															
		220	0.5651	11925																													
		230	0.2145	4526																													
		アルカリ性 (メタノール/1 mol/L NaOH水溶液 (90/10(v/v)))																															
		220	0.5450	11500																													
230	0.2153	4543																															
試験項目	試験方法	試験結果																															
土壌吸着係数	OECD106	K <sup>ads</sup> <sub>Foc</sub> : 398~3362 (4種類の国内土壌)																															

試験項目	純度 (%)	試験方法	試験結果
土壌残留性		記載なし	粒剤(2回散布)、水田土壌： 沖積埴壤土：半減期 6.1日 (土壌の深さ10 cm、減衰曲線による推定値) 洪積砂壤土：半減期 13.4日 (土壌の深さ10 cm、減衰曲線による推定値)
			粒剤+乳剤(各1回散布)、水田土壌(2種類)： 洪積砂壤土に沖積埴壤土1 m客土の造成地：半減期 2.2日 (土壌の深さ記載なし、減衰曲線による推定値) 沖積埴壤土：半減期20.0日 (土壌の深さ記載なし、減衰曲線による推定値)

### 3. 申請に係る情報

令和4年(2022年)12月27～28日に、再評価を受けるべき者から提出された農薬取締法(昭和23年法律第82号)第8条第3項に基づく試験成績等を受理した。

プレチラクロールは、令和7年3月現在、バングラデシュ、中国等で農薬登録されている。

### 4. 作用機作

プレチラクロールは、非ホルモン型吸収移行性の除草剤であり、植物の脂質生合成系の中でC<sub>20</sub>以上の超長鎖脂肪酸生合成系酵素を阻害し、雑草に対して主に幼芽部の伸長を抑制し増殖を抑え枯死させることにより除草活性を有する。  
(HRAC分類：15<sup>\*</sup>)

※参照：<https://www.hracglobal.com/>

### 5. 適用病害虫雑草等の範囲及び使用方法

評価対象となるプレチラクロールを含有する農薬41製剤について、適用病害虫雑草等の範囲及び使用方法を別添1に示す。

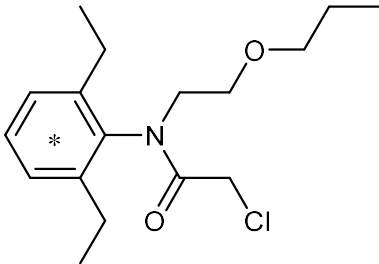
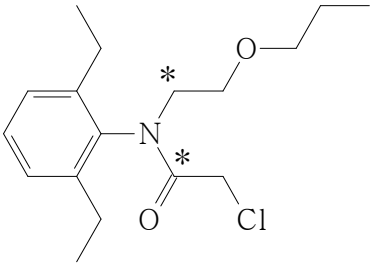
## II. 安全性に係る試験の概要

プレチラクロールは、令和6年12月18日、食品安全委員会において、食品健康影響評価（資料1）がなされている。食品安全委員会では、評価に用いた試験成績において、過去のテストガイドラインに基づき実施されている試験も確認されたが、プレチラクロールの代謝・毒性プロファイルを適切に把握できることから、評価は可能と判断されている。

### 1. 動物代謝（資料2～6）

プレチラクロールのフェニル基の炭素を均一に<sup>14</sup>Cで標識したもの（以下「<sup>14</sup>C-プレチラクロール」という。）並びにN原子に隣接するカルボニル基及びメチレン基の炭素を<sup>13</sup>Cで標識したもの（以下「<sup>13</sup>C-プレチラクロール」という。）（表1）を用いた動物代謝試験について、動物体内への吸収率（経口吸収率）、分布及び代謝の概要をまとめた。

表1 標識化合物

略称	<sup>14</sup> C-プレチラクロール	<sup>13</sup> C-プレチラクロール
構造式		
標識位置	フェニル基の炭素を均一に標識	N元素に隣接するカルボニル基及びメチレン基の炭素

#### 1-1. 経口吸収率

##### (1) ラット①

##### ① 尿及び糞中排泄（資料2、GLP）（資料3、非GLP）

Sprague-Dawley (SD) ラット（一群雌雄各2又は4匹）に<sup>14</sup>C-プレチラクロールを0.5 mg/kg体重（以下「低用量」という。）、25 mg/kg体重（以下「中用量」という。）若しくは100 mg/kg体重（以下「高用量」という。）で単回経口投与又は反復投与（非標識プレチラクロールを高用量で14日間連続経口投与後、<sup>14</sup>C-プレチラクロールを低用量で単回経口投与）して、排泄試験が実施された。

投与後48時間及び最終試料採取時間における尿及び糞中排泄率を、表2に示した。

<sup>14</sup>C-プレチラクロール投与後、48時間までに73.3%TAR～89.6%TARが、

168 時間までに 79.5%TAR~95.4%TAR が尿及び糞中に排泄された。高用量投与群の雌では、尿中及び糞中の排泄率はほぼ同等であったが、その他の投与群では、主に糞中に排泄された。排泄に性差及び投与回数による差は少ないものと考えられた。呼気中に排泄された放射能は、0.06%TAR 以下であった。

表 2 投与後 48、72、144 及び 168 時間の尿及び糞中排泄率 (%TAR)

投与 性別	単回投与										反復投与	
	雄	雌	雄	雌	雄	雌	雄	雌	雄	雌	雄	雌
投与量	0.5 mg/kg 体重		100 mg/kg 体重		0.5 mg/kg 体重		0.5 mg/kg 体重		25 mg/kg 体重		0.5 mg/kg 体重/日 <sup>o)</sup>	
最終試料 採取時間	168		168		72		144		144		168	
匹数	4	4	4	4	2	2	2	2	2	2	4	4
尿												
投与後 48 時間	20.6	25.7	37.0	44.7	30.7	29.9	28.2	33.4	24.0	35.3	23.6	29.9
最終採取時間 <sup>a)</sup>	22.9	29.3	39.8	47.6	31.2	31.0	31.3	38.2	26.9	37.8	24.9	32.4
糞												
投与後 48 時間	55.4	47.6	52.6	44.3	58.9	53.6	59.7	49.5	60.4	50.0	55.4	44.8
最終採取時間	57.3	50.2	55.4	47.8	59.7	54.9	64.0	56.3	64.7	53.6	57.6	47.9
排泄率合計 <sup>b)</sup>												
投与後 48 時間	76.0	73.3	89.6	89.0	89.6	83.5	87.9	82.9	84.4	85.3	79.0	74.7
最終採取時間	80.2	79.5	95.2	95.4	90.9	85.9	95.3	94.5	91.6	91.4	82.5	80.3
総回収率 <sup>d)</sup>	82.6	81.7	99.2	99.5	97.3	92.3	98.6	98.3	95.1	95.4	84.2	82.2

<sup>a)</sup>ケージ洗浄液を含む。<sup>b)</sup>表中の尿及び糞の排泄率の合計。<sup>c)</sup>非標識プレチラクロールを高用量で 14 日間連続経口投与後、<sup>14</sup>C-プレチラクロールを低用量で単回経口投与。

<sup>d)</sup>最終採取時間の総回収率。組織、臓器、カーカス<sup>1</sup>を含む。

表の値は匹数に記載した動物数の平均値

## ② 胆汁中排泄 (資料 2、GLP)

胆管カニューレを挿入した SD ラット (雄) に <sup>14</sup>C-プレチラクロールを低用量 (4 匹) 又は高用量 (5 匹) で単回経口投与し、投与後 48 時間の胆汁、尿及び糞を経時的に採取し、胆汁中排泄試験が実施された。

投与後 48 時間の胆汁、尿及び糞中排泄率を表 3 に示した。

投与後 48 時間の排泄率は胆汁中で 33.8%TAR~56.8%TAR、尿中で 1.58%TAR~2.06%TAR、糞中で 3.49%TAR~7.83%TAR であった。両投与群とも尿中排泄率が約 2%TAR に減少した。このことは、胆汁とともに十二指腸に排泄された放射能が再吸収され、腸肝循環しているものと考えられた。

胆汁、尿、ケージ洗浄液及びカーカス中の残留放射能の合計から、プレチ

<sup>1</sup> 組織・臓器を取り除いた残渣のことをカーカスという (以下同じ。)

ラクロールの単回投与後 48 時間の雄の吸収率は、低用量投与群で 60.6%、高用量投与群で 37.6%と算出した。

表 3 投与後 48 時間の胆汁、尿及び糞中排泄率(%TAR)

投与量	0.5 mg/kg 体重		100 mg/kg 体重	
	雄	雌	雄	雌
尿	1.41		1.86	
胆汁	56.8		33.8	
糞	7.83		3.49	
ケージ洗浄液	0.17		0.20	
消化管	28.1		55.1	
カーカス	2.18		1.70	
経口吸収率*	60.6		37.6	
総回収率	96.5		96.2	

\*：胆汁、尿、ケージ洗浄液及びカーカスの合計

表の値は 0.5 mg/kg 体重投与群は 4 匹の平均値、100 mg/kg 体重投与群は 5 匹の平均値

## (2) ラット②

### ① 尿及び糞中排泄（資料 4、GLP）

Wistar ラット（一群雌雄各 4 匹）に  $^{14}\text{C}$ -プレチラクロールを低用量又は高用量で単回経口投与し、尿及び糞中排泄試験が実施された。

投与後 168 時間の尿及び糞中排泄率を表 4 に示した。

投与後 168 時間の排泄率は尿中で 23%TAR~31%TAR、糞中で 66%TAR~75%TAR であり、主に糞中に排泄された。

表 4 投与後 168 時間の尿及び糞中排泄率 (%TAR)

投与量	0.5 mg/kg 体重		100 mg/kg 体重	
	雄	雌	雄	雌
尿 <sup>a</sup>	23	31	26	28
糞	72	66	75	72
総回収率	98	99	103	102

<sup>a</sup>：ケージ洗浄液を含む。

表の値は 4 匹の平均値

### ② 胆汁中排泄（資料 4、GLP）

胆管カニューレを挿入した Wistar ラット（一群雌雄各 4 匹）に  $^{14}\text{C}$ -プレチラクロールを低用量又は高用量で単回経口投与し、胆汁中排泄試験が実施された。

投与後 72 時間の胆汁、尿、ケージ洗浄液及び糞中排泄率は表 5 に示され

ている。

投与後 72 時間の排泄率は胆汁中で 77%TAR～86%TAR、尿中で 3.0%TAR～7.8%TAR、糞中で 8.8%TAR～11%TAR であり、主に胆汁を介して糞中に排泄されると考えられた。

胆汁、尿、ケージ洗浄液及びカーカス中の残留放射能の合計から、プレチラクロールの単回投与後 72 時間の吸収率は、低用量投与群の雌雄で 85.4%～86.8%、高用量投与群の雌雄で 90.7%～91.7%と算出された。

表 5 投与後 72 時間の胆汁、尿、ケージ洗浄液及び糞中排泄率(%TAR)

投与量	0.5 mg/kg 体重		100 mg/kg 体重	
	雄	雌	雄	雌
尿	2.7	7.1	3.6	6.5
胆汁	83	77	86	84
糞	10	11	10	8.8
ケージ洗浄液	0.3	0.7	0.2	0.5
消化管	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
消化管内容物	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
カーカス	0.8	0.6	0.9	0.7
経口吸収率*	86.8	85.4	90.7	91.7
総回収率	96.8	96.4	101	100

\*：胆汁、尿、ケージ洗浄液及びカーカスの合計  
表の値は 4 匹の平均値

## 1-2. 分布

### (1) ラット① (資料 2、GLP) (資料 3、非 GLP)

SD ラット (一群雌雄各 9 匹) に <sup>14</sup>C-プレチラクロールを低用量又は高用量で単回経口投与し、体内分布試験が実施された。

臓器及び組織中の放射能濃度は、用量及び性別に関係なく、いずれの測定時点でも全血で最高濃度を示した。投与 24 時間後では、肝臓、脾臓、肺等の血液で満たされている臓器及び組織において、放射能濃度が高かった。その後、いずれの臓器及び組織においても経時的に減少したが、投与 336 時間後の全血中残留放射能濃度は、時間経過にかかわらず高値を持続していたため、ほとんどの臓器及び組織で血漿中濃度よりも高い濃度で残留した。

また、SD ラット (一群雌雄各 2 匹) に <sup>14</sup>C-プレチラクロールを低用量又は中用量で単回経口投与し、投与 144 時間後の臓器及び組織を採取し、体内分布試験が実施された。その結果、上記の試験と同様の傾向が認められた。すなわち、

低用量投与群における投与 144 時間後の臓器及び組織中の残留放射能濃度は、全血が最も高く (0.14~0.19 µg/g)、次いで血液に富む臓器である脾臓及び肺で高かった (脾臓 : 0.04~0.06 µg/g、肺 : 0.03 µg/g) が、ほかの臓器では 0.02 µg/g 未満であった。中用量投与群における残留放射能濃度は低用量投与群の約 50 倍であった。

## (2) ラット② (資料 4、GLP)

Wistar ラット (一群雌雄各 4 匹) に <sup>14</sup>C-プレチラクロールを低用量又は高用量で単回経口投与し、体内分布試験が実施された。

残留放射能の分布に、顕著な性差は認められなかった。投与 168 時間後の組織中の残留放射能濃度は、全血が最も高く、次いで血液に富む臓器である脾臓、心臓、肺、腎臓及び肝臓で高かった。

## 1-3. 代謝

### (1) ラット① (資料 5、非 GLP)

SD ラット (雄 20 匹) に <sup>14</sup>C-プレチラクロール及び <sup>13</sup>C-プレチラクロールを混合したものを 29.9 mg/kg 体重となるよう単回強制経口投与し、投与後 48 時間の尿及び糞を試料として、代謝物同定・定量試験が実施された。代謝物の記号と化学名の関係は別紙 1 に示す。

尿中からは代謝物 B、D、E 及び K が同定されたが、いずれも 2.2%TAR 以下であり、尿中代謝物の大部分は未同定であった (26%TAR)。糞中からは未変化のプレチラクロール (3.1%TAR)、代謝物 C、K 及び L が同定されたが、いずれも 4.2%TAR 以下であり、糞中代謝物の大部分は未同定であった (43.1%TAR)。

### (2) ラット② (資料 6、GLP)

尿及び糞中排泄試験 [1-1. (2) ①] 及び胆汁中排泄試験 [1-1. (2) ②] で得られた尿、糞及び胆汁を試料として、代謝物同定・定量試験が実施された。

尿中からは代謝物 D、K、L 及び U が同定されたが、いずれも 3.1%TAR 以下であり、未変化のプレチラクロールは検出されなかった。

胆管カニューレ非処置ラットの糞中からは代謝物 B、C、D、K、L 及び U が同定されたが、いずれも 7.7%TAR 以下であり、未変化のプレチラクロールは検出されなかった。胆管カニューレ処置ラットの糞中からは未変化のプレチラクロールが 100 mg/kg 体重投与群のみで検出された。ほかに代謝物 C 及び K が同定されたが、いずれも 1.0%TAR 未満であった。

胆管カニューレ処置ラットの胆汁中からは代謝物 K のグルクロン酸抱合体が

49.4%TAR～56.4%TAR 認められた。ほかに代謝物 B、B1、K、L、S 及び U が同定されたが、いずれも 8.8%TAR 以下であり、未変化のプレチラクロールは検出されなかった。

また、尿及び糞中排泄試験 [1-1. (2) ①] で得られた血漿を試料として、代謝物同定・定量試験が実施された。未同定代謝物が 73.6%AUC～90.0%AUC 認められ、特徴付けの結果、プレチラクロール又はその代謝物が高分子に結合又は組み込まれたものであると考えられた。

プレチラクロールのラットにおける主要代謝経路は、①反応性に富む  $\alpha$  位塩素原子とグルタチオンとの置換により生成したグルタチオン抱合体のペプチターゼによる代謝物 B の生成とそれに続く脱プロピル化及び硫黄原子の酸化による代謝物 D の生成、②プレチラクロールの側鎖のエーテル結合の開裂による代謝物 K の生成とそれに続く酸化による代謝物 L の生成と考えられた。

## 2. 毒性試験の結果概要

資料1（食品安全委員会農薬評価書）に示す各種毒性試験の結果の概要を表6に示す。

プレチラクロールの急性経口毒性（LD<sub>50</sub>）はラットで>2000 mg/kg 体重、マウスで 1800 mg/kg 体重であった。経皮、吸入及び皮下ではいずれの投与経路においても急性毒性は弱く（LD<sub>50</sub>（経皮）:>4000 mg/kg 体重、LC<sub>50</sub>（吸入）:>5.08 mg/L、LD<sub>50</sub>（皮下）:>10000 mg/kg 体重）、腹腔内の急性毒性（LD<sub>50</sub>）は 1120 mg/kg 体重であった。眼と皮膚に対して軽度の刺激性が認められ、皮膚感作性が認められた。

プレチラクロール投与による影響は、主に体重（増加抑制）及び肝臓（重量増加、T.Chol 増加等）に認められた。神経毒性、発がん性、繁殖能に対する影響、催奇形性及び生体において問題となる遺伝毒性は認められなかった。

表6 各試験における無毒性量等

急性毒性			
試験	投与量 (mg/kg 体重)	LD <sub>50</sub> 又は LC <sub>50</sub>	観察された症状
急性経口毒性 ラット 非 GLP (資料7)	雄：2100、2500、 3000、3600、4300、 5200  雌：1700、2100、 2500、3000、3600、 4300	LD <sub>50</sub> 雄：3600 mg/kg 体重 雌：2200 mg/kg 体重	嘔吐、立毛、全身性痙攣、失禁（投与後 10～ 20 分後以降、所見の発現用量について詳細 不明）  雄：2100 mg/kg 体重以上で死亡例 （投与 1～2 日後） 雌：1700 mg/kg 体重以上で死亡例 （投与 1～2 日後）
急性経口毒性 ラット GLP (資料8)	雌：2000	LD <sub>50</sub> 雌：>2000 mg/kg 体重	症状及び死亡例なし
急性経口毒性 ラット GLP (資料9)	雌：2000	LD <sub>50</sub> 雌：>2000 mg/kg 体重	円背位（投与当日）  死亡例なし
急性経口毒性 マウス 非 GLP (資料10)	雄：1700、2100、 2500、3000、3600、 4300  雌：1200、1500、 1700、2100、2500、 3000	LD <sub>50</sub> 雄：2300 mg/kg 体重 雌：1800 mg/kg 体重	嘔吐、立毛、全身性痙攣、失禁（投与 10～20 分後以降、所見の発現用量について詳細不明）  雄：2100 mg/kg 体重以上で死亡例 （投与 1～2 日後） 雌：1500 mg/kg 体重以上で死亡例 （投与 1～2 日後）
急性経口毒性 マウス GLP (資料11)	雌雄：700、910、 1183、1538、2000、 2600	LD <sub>50</sub> 雄：2140 mg/kg 体重 雌：2020 mg/kg 体重	2600 mg/kg 体重 雄：衰弱（投与 1～2 日後） 2000 mg/kg 体重以上 雄：体重増加抑制（投与 3～6 日後） 雌：衰弱（投与 1～3 日後）

			1538 mg/kg 体重以上 雌雄：鎮静 (投与 1~3 日後) 910 mg/kg 体重以上 雌雄：自発運動低下 (投与 2 時間~6 日後) 700 mg/kg 体重以上 雌雄：下痢 (投与 1~6 時間後)  雌雄：1183 mg/kg 体重以上で死亡例 (投与 1~6 日後)
急性経皮毒性 ラット 非 GLP (資料 12)	雌雄：4000	LD <sub>50</sub> 雌雄：>4000 mg/kg 体重	嘔吐、軽度の全身性痙攣 死亡例なし
急性経皮毒性 ラット GLP (資料 13)	雌雄：5000	LD <sub>50</sub> 雌雄：>5000 mg/kg 体重	暴露部位の紅斑、浮腫 死亡例なし
急性吸入毒性 (エアロゾル) ラット GLP (資料 14)	雌雄：5.08 mg/L (鼻部暴露)	4 時間 LC <sub>50</sub> 雌雄：>5.08 mg/L	呼吸雑音、努力呼吸、呼吸数増加、嗜眠、肺の褐色病変 死亡例なし
急性皮下毒性 ラット 非 GLP (資料 15)	雌雄：4800、5800、 7000、8300、10000	LD <sub>50</sub> 雌雄：>10000 mg/kg 体重	立毛、全身痙攣 死亡例なし
急性皮下毒性 マウス 非 GLP (資料 16)	雌雄：4800、5800、 7000、8300、10000	LD <sub>50</sub> 雌雄：>10000 mg/kg 体重	立毛、嘔吐、全身性痙攣 雄：8300 mg/kg 体重以上で死亡例 雌：10000 mg/kg 体重で死亡例
急性腹腔内毒性 ラット 非 GLP (資料 17)	雌雄：830、1000、 1200、1440、1720、 2070	LD <sub>50</sub> 雄：1300 mg/kg 体重 雌：1120 mg/kg 体重	立毛、嘔吐、全身性痙攣 雌雄：830 mg/kg 体重以上で死亡例
急性腹腔内毒性 マウス 非 GLP (資料 18)	雌雄：690、830、 1000、1200、1440、 1720	LD <sub>50</sub> 雌雄：1120 mg/kg 体重	立毛、嘔吐、全身性痙攣 雌雄：830 mg/kg 体重以上で死亡例
試験	結果		
皮膚刺激性 ウサギ GLP (資料 19)	軽度の刺激性が認められた		
眼刺激性 ウサギ GLP (資料 20)	軽度の刺激性が認められた		
皮膚感作性 (Optimization 法) マウス 非 GLP (資料 21)	皮膚感作性が認められた		

皮膚感作性 (Buchler 法) モルモット GLP (資料 22)	皮膚感作性が認められた			
皮膚感作性 (LLNA 法) マウス GLP (資料 23)	皮膚感作性が認められた			
短期毒性				
試験	投与量 <sup>2</sup> (mg/kg 体重/日)	NOAEL (mg/kg 体重/日)	LOAEL (mg/kg 体重/日)	所見
90 日間 反復経口 投与毒性 ラット 非 GLP (資料 24)	雌雄：0、100、300、1000、3000 ppm 雄：0、6.3、19.2、63.3、196 雌：0、7.0、21.8、75.1、251	雄：63.3 雌：21.8	雄：196 雌：75.1	3000 ppm 雄：肝及び腎絶対及び比重量増 加、T.Chol 増加 雌：食餌効率低下、腎比重量増加 1000 ppm 以上 雌：体重増加抑制 <sup>3</sup>
6 か月間 反復経口 投与毒性 イヌ 非 GLP (資料 25)	雌雄：0、30、300、1000 ppm 雄：0、1.3、12、45 雌：0、1.5、13、49	雄：12 雌：13	雄：45 雌：49	1000 ppm 雄：体重増加抑制 (投与 7 週以 降)、ALP 増加 雌：ALP 増加
1 年間 反復経口 投与毒性 イヌ GLP (資料 26)	雌雄：0、25、50、300、1500 ppm 雄：0、0.71、1.47、8.49、43.6 雌：0、0.78、1.55、8.90、47.8	雄：8.49 雌：8.90	雄：43.6 雌：47.8	1500 ppm 雄：嘔吐 (投与 7 週以降) 雌：ALP 増加
遺伝毒性				
試験	試験系	試験濃度	結果	
DNA 修復 ( <i>in vitro</i> ) 非 GLP (資料 27)	<i>Bacillus subtilis</i> (H17、M45 株)	200～20000 µg/ディスク	陰性	
復帰突然変異 ( <i>in vitro</i> ) 非 GLP (資料 28)	<i>Salmonella typhimurium</i> (TA98、TA100、TA1535、TA1537、 TA1538 株) <i>Escherichia coli</i> (WP2hcr 株)	10～5000 µg/プレート (+/-S9)	陰性	
復帰突然変異 ( <i>in vitro</i> ) 非 GLP	<i>S. typhimurium</i> (TA98、TA100、TA1535、TA1537 株)	25～2025 µg/プレート (+/-S9)	陰性	

<sup>2</sup> 混餌投与試験については、混餌濃度を ppm として併記した。投与量は平均検体摂取量として摂餌量と試験動物の体重から以下のように算出された値。

$$\text{投与量 (mg/kg 体重/日)} = \text{混餌濃度 ppm} \times \text{1 日当たりの摂餌量} \div \text{試験動物体重}$$

<sup>3</sup> 3000 ppm 投与群では投与 1 週以降、1000 ppm 投与群では投与 4 週以降

(資料 29)			
復帰突然変異 ( <i>in vitro</i> ) GLP (資料 30)	<i>S. typhimurium</i> (TA98、TA100、TA1535、TA1537 株) <i>E. coli</i> (WP2 <i>uvrA</i> /pKM101、WP2/pKM101 株)	①プレート法 3～5000 µg/プレート (+/-S9) ②プレインキュベーション法 10～5000 µg/プレート (-/+S9) (TA100 株のみ) 33～5000 µg/プレート (-/+S9) (TA100 株以外)	陰性
染色体異常 ( <i>in vitro</i> ) GLP (資料 31)	チャイニーズハムスター卵巣由来細胞 (CHO)	6.75～54 µg/mL (+/-S9)	陰性
染色体異常 ( <i>in vitro</i> ) GLP (資料 32)	ヒト末梢血リンパ球細胞	①12.6～50.4 µg/mL (+/-S9) (処理後 4 時間で標本作製) ②7.0～21.3 µg/mL (-S9) (処理後 22 時間で標本作製) 3.8～70.0 µg/mL (+S9) (処理後 4 時間で標本作製)	陽性
遺伝子突然変異 ( <i>in vitro</i> ) GLP (資料 33)	チャイニーズハムスター肺由来線維芽細胞(V79) ( <i>HPRT</i> 遺伝子)	10.0～40.0 µg/mL (-S9) 15.0～80.0 µg/mL (+S9)	陰性
小核 ( <i>in vivo</i> ) GLP (資料 34)	Wistar ラット (骨髄細胞) (一群雄 5 匹)	500、1000、2000 mg/kg 体重 (単回経口投与、投与 24 又は 48 時間 後標本採取)	陰性
小核 ( <i>in vivo</i> ) GLP (資料 35)	Wistar ラット (骨髄細胞) (一群雄 7 匹)	500、1000、2000 mg/kg 体重 (単回経口投与、投与 24 又は 48 時間 後標本採取)	陰性
小核 ( <i>in vivo</i> ) GLP (資料 36)	ddY マウス (骨髄細胞) (一群雄 6 匹)	500、1000、2000 mg/kg 体重 (単回経口投与、投与 24、48 又は 72 時間後標本採取)	陰性
コメント ( <i>in vivo</i> ) GLP (資料 37)	Wistar ラット (胃、小腸、肝臓) (一群雄 6 匹)	500、1000、2000 mg/kg 体重/回 (20 時間間隔で 2 回強制経口投与、最 終投与 4 時間後に標本作製)	陰性 (胃) 疑陽 性(小 腸 <sup>4</sup> 、 肝臓 <sup>5</sup> )
遺伝子突然変異 ( <i>in vivo</i> ) GLP (資料 38)	トランスジェニック Big Blue Fisher ラット (肝臓、十二指腸) (一群雄 6 匹) ( <i>cII</i> 遺伝子)	250、500、1000 mg/kg 体重/日 (28 日間反復強制経口投与、最終投与 3 日後に標本作製)	陰性
遺伝子突然変異 ( <i>in vivo</i> ) GLP (資料 39)	トランスジェニック Muta マウス (肝臓、胃) (一群雄 6 又は 7 匹) ( <i>lacZ</i> 遺伝子)	250、500、1000 mg/kg 体重/日 (28 日間反復強制経口投与、最終投与 3 日後に標本作製)	陰性

<sup>4</sup> % Tail Intensity が有意に増加したが、1000 mg/kg 体重/回以下投与群では背景データの範囲内であり、2000 mg/kg 体重/回投与群では値のばらつきが大きかった。

<sup>5</sup> % Tail Intensity が有意に増加したが、1000 mg/kg 体重/回以下投与群では背景データの範囲内であり、2000 mg/kg 体重/回投与群では細胞傷害が認められた。

ヒト末梢血リンパ球細胞を用いた染色体異常試験において陽性（構造異常誘発）、ラットを用いたコメット試験において疑陽性であったが、ラット及びマウスを用いた小核試験、トランスジェニックラット及びマウスを用いた遺伝子突然変異試験を含むその他の試験ではいずれも陰性であったことから、プレチラクロールには生体において問題となる遺伝毒性はないものと考えられた。

長期毒性及び発がん性

試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	NOAEL (mg/kg 体重/日)	LOAEL (mg/kg 体重/日)	所見
2年間 反復経口 投与毒性/ 発がん性 併合 ラット 非 GLP (資料 40、41)	雌雄：0、30、300、3000 ppm 雄：0、1.86、18.3、198 雌：0、1.84、18.5、199	雄：1.86 雌：1.84	雄：18.3 雌：18.5	3000 ppm 雄：体重増加抑制（投与 1 週以降）、 摂餌量減少（投与 1～4 週）及び 食餌効率減少、TP・Alb 及び Cre 減少、BUN 及び T.Chol 増加、尿 量増加・尿比重減少、肝絶対及び 比重量増加 雌：体重増加抑制（投与 3 週以降）、 摂餌量減少（投与 1～4 週）、潜血 反応及び尿沈渣（赤血球）陽性 例数増加、肝・脾・心及び副腎絶 対及び比重量増加、腎比重量増 加、GGT 増加 300 ppm 以上 雄：脾比重量増加、腎及び副腎絶対 及び比重量増加、慢性腎症（糸球体 硬化、線維化、ネフローシス） 雌：Glu 増加 発がん性は認められなかった。
2年間 反復経口 投与毒性/ 発がん性 併合 マウス 非 GLP (資料 42)	雌雄：0、300、1000、3000 ppm 雄：0、47、159、492 雌：0、58、186、594	雄：47 雌：58	雄：159 雌：186	3000 ppm 雄：T.Chol 減少、食餌効率低下 雌：体重増加抑制（投与 2 週以降）、 食餌効率低下、腎及び肝比重量 増加 1000 ppm 以上 雄：体重増加抑制 <sup>6</sup> 、摂餌量減少 <sup>7</sup> 、 腎絶対及び比重量増加、腎皮髄 境界部石灰化 雌：摂餌量減少 <sup>7</sup> 、ALP 増加 発がん性は認められなかった。

生殖・発生毒性

試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	NOAEL (mg/kg 体重/日)	LOAEL (mg/kg 体重/日)	所見
2世代 繁殖毒性 ラット	雌雄：0、300、1000、3000 ppm	親動物： P 雄：69.6 P 雌：—	親動物： P 雄：206 P 雌：26.4	親動物 3000 ppm P 雄：体重増加抑制 <sup>8</sup> 、摂餌量減少

<sup>6</sup> 3000 ppm 投与群では投与 1 週以降、1000 ppm 投与群では投与 10 週以降。

<sup>7</sup> 3000 ppm 投与群では投与 1 週以降、1000 ppm 投与群では投与 3 週以降。

<sup>8</sup> 統計検定は特定の期間（P 雄：投与 7～9 週及び 23～25 週、P 雌：投与 7～9 週）でのみ報告され、いず  
れも有意差が認められた。

GLP (資料 43)	P 雄 : 0、20.7、69.6、206 P 雌 : 0、26.4、86.6、267 F <sub>1</sub> 雄 : 0、25.4、83.3、262 F <sub>1</sub> 雌 : 0、29.0、94.0、301 F <sub>2</sub> 雄 : 0、26.5、85.9、272 F <sub>2</sub> 雌 : 0、28.7、94.6、295	F <sub>1</sub> 雄 : 83.3 F <sub>1</sub> 雌 : — F <sub>2</sub> 雄 : 85.9 F <sub>2</sub> 雌 : —  児動物 : P 雄 : — P 雌 : — F <sub>1</sub> 雄 : — F <sub>1</sub> 雌 : — F <sub>2</sub> 雄 : — F <sub>2</sub> 雌 : —	F <sub>1</sub> 雄 : 262 F <sub>1</sub> 雌 : 29.0 F <sub>2</sub> 雄 : 272 F <sub>2</sub> 雌 : 28.7  児動物 : P 雄 : 20.7 P 雌 : 26.4 F <sub>1</sub> 雄 : 25.4 F <sub>1</sub> 雌 : 29.0 F <sub>2</sub> 雄 : 26.5 F <sub>2</sub> 雌 : 28.7	<p>9、肝比重量増加 P 雌 : 体重増加抑制<sup>8</sup> F<sub>1</sub> 雄 : 体重増加抑制、摂餌量減少、飲水量減少 F<sub>1</sub> 雌 : 体重増加抑制、飲水量減少 F<sub>2</sub> 雄 : 体重増加抑制、肝比重量増加、腎比重量増加 F<sub>2</sub> 雌 : 肝比重量増加</p> <p>300 ppm 以上 F<sub>1</sub> 雌 : 肝比重量増加、腎比重量増加</p> <p>児動物 3000 ppm F<sub>1</sub> 雄 : 体重増加抑制、肝比重量増加、脾比重量減少 F<sub>1</sub> 雌 : 体重増加抑制、脾比重量減少 F<sub>2</sub> 雌雄 : 体重増加抑制、脾比重量減少</p> <p>300 ppm 以上 F<sub>1</sub> 雌 : 肝比重量増加 F<sub>2</sub> 雌雄 : 肝比重量増加</p> <p>なお、本試験においてみられた一般毒性的指標としての肝臓及び腎臓の重量増加に関わる無毒性量は 300 ppm 未満ではあるが、ラットを用いた他の試験の最小毒性量を考慮すると 300 ppm 近辺であると考えられ、ラットを用いた 2 年間反復経口投与毒性/発がん性併合試験における無毒性量 1.84 mg/kg 体重/日より低い量になるとは考えがたい。</p> <p>繁殖能に対する影響は認められなかった。</p>
発生毒性 ラット 非 GLP (資料 44)	0、75、150、300 (妊娠 7～17 日投与)	母動物 : 75 胎 児 : 300	母動物 : 150 胎 児 : —	<p>300 mg/kg 体重/日 母動物 : 脾臓の絶対重量及び肝臓の比重量増加</p> <p>150 mg/kg 体重以上 母動物 : 脾臓の比重量増加</p> <p>催奇形性は認められなかった。</p>
発生毒性 ウサギ GLP (資料 45)	0、75、150、300 (妊娠 6～19 日投与)	母動物 : 75 胎 児 : 300	母動物 : 150 胎 児 : —	<p>150 mg/kg 体重/日以上 母動物 : 体重増加抑制 (妊娠 18 日以降) 及び摂餌量の減少 (150 mg/kg 体重/日投与群 : 妊娠 20～29 日、300 mg/kg 体重/日 : 妊娠 6～19 日)</p> <p>催奇形性は認められなかった。</p>
神経毒性				
試験	投与量 (mg/kg 体重)	NOAEL	LOAEL	所見

<sup>9</sup> 統計検定は実施されていないが、検体投与の影響と考えられた。

		(mg/kg 体重)	(mg/kg 体重)		
急性神経毒性 ラット GLP (資料46)	雌雄：0、150、500、1500	雌雄：1500	雌雄：－	毒性所見なし 急性神経毒性は認められなかった。	
90日間 反復経口 投与神経毒性 ラット GLP (資料47)	雌雄：0、200、1000、5000 ppm 雄：0、13.7、66.6、357 雌：0、15.2、77.1、431	雄：66.6 雌：77.1	雄：357 雌：431	5000 ppm 雄：体重増加抑制（投与1週以降）、食餌効率低下、摂餌量減少（投与1、5及び13週） 雌：体重増加抑制（投与6週以降）、食餌効率低下 神経毒性は認められなかった。	
一般薬理（資料48、非GLP）					
試験	投与量 (mg/kg 体重)	NOEL (mg/kg 体重)	LOEL (mg/kg 体重)	所見	
中枢神経系	一般状態 (Irwin法) マウス	雄：0、1000、2000、4000 (経口)	雄：－	雄：1000	自発運動低下
	自発運動量 マウス	雄：0、1000、2000、4000 (経口)	雄：1000	雄：2000	軽度の自発運動量減少
体性神経系	摘出横隔膜 神経筋 ラット	雄： $10^{-8}$ ～ $10^{-4}$ g/mL ( <i>in vitro</i> )	雄： $10^{-4}$ g/mL	雄：－	単独作用なし d-ツボクラリン、フィズスチグミンとの相互作用なし
自律神経系	瞳孔径 マウス	雄：0、1000、2000、4000 (経口)	雄：4000	雄：－	瞳孔径の変化なし
平滑筋	摘出回腸 モルモット	雄： $10^{-8}$ ～ $10^{-4}$ g/mL ( <i>in vitro</i> )	雄： $10^{-7}$ g/mL	雄： $10^{-6}$ g/mL	単独作用なし ACh、Hisの作用を抑制
	摘出子宮 ラット	雌： $10^{-8}$ ～ $10^{-4}$ g/mL ( <i>in vitro</i> )	雌： $10^{-7}$ g/mL	雌： $10^{-6}$ g/mL	単独作用なし ACh、Oxtの作用を抑制
循環器系	血圧 心拍数 呼吸数 呼吸振幅 ウサギ	雄：1、10、20、100 (静脈内)	雄：1	雄：10	単独作用：血圧下降、徐脈、呼吸数増加、呼吸振幅増大 ACh、Adrとの相互作用なし  100 mg/kg 体重で死亡例
循環器系	摘出心臓 ウサギ	雄： $10^{-5}$ ～ $10^{-3}$ g/0.1mL ( <i>in vitro</i> )	雄： $10^{-5}$ g/0.1mL	雄： $10^{-4}$ g/0.1mL	単独作用：灌流量減少、心収縮力減少 ACh、Adrとの相互作用なし
	摘出心房 モルモット	雄： $10^{-7}$ ～ $10^{-4}$ g/mL ( <i>in vitro</i> )	雄： $10^{-7}$ g/mL	雄： $10^{-6}$ g/mL	単独作用：収縮幅の減少傾向、収縮回数 の減少傾向 ACh、Adrとの相互作用なし

血液	出血時間 血液凝固時間 ウサギ	雄：1、10、20 (静脈内)	雄：20	雄：—	影響なし
	溶血作用 ウサギ	雄：0.01～1000 µg/mL ( <i>in vitro</i> )	雄：1 µg/mL	雄：10 µg/mL	10 µg/mL で 10 時間後に中等度溶血、100 µg/mL 以上で 10 時間後に完全溶血
抗原性	皮膚刺激性 光毒性 光アレルギー性 モルモット	雄 感作：2% (0.1 mL) 誘発：0.1% (0.1 mL) (経皮)			陰性
その他					
試験		概要			
メトラクロールの赤血球結合性 ( <i>in vitro</i> ) GLP (資料 49)		<p>ラットにおける動物体内動態試験においてプレチラクロールの血中濃度の極めて緩やかな減衰が認められた。プレチラクロールと共通のクロロアセトアミド構造を持つ化合物とヒトの赤血球との結合性を検討することを目的として、SD ラット (雄 3 匹) 又はヒト (健康ドナー、48 歳、男性) の血液に、メトラクロール [(S)-2-クロロ-2'-エチル-N-(2-メトキシ-1-メチルエチル)-6'-メチルアセトアニリド] のフェニル環の炭素を均一に <sup>14</sup>C で標識した <sup>14</sup>C-メトラクロールを添加 (ヒト：1.2 µg/g 血液、ラット：1.0 µg/g 血液) して、赤血球結合試験が実施された。</p> <p>ラットでは 89.0% が細胞質蛋白分画に結合していたが、ヒトでの結合は 7% であり、72.2% は血漿中に存在した。</p> <p>この特異性は、ラットとヒトにおけるヘモグロビンのグロビン部の三次元構造の相違に基づくと考えられている。ラットでは Cys α-13、104、111 及び Cys β-93、125 の 5 種のシステイン残基が存在し、このうち β-125 残基はヘモグロビン分子表面に存在するので、疎水性残基に囲まれている SH 基と、活性化された塩素基を有するクロロアセトアミド分子との間で相対的に高い化学反応が生じる。一方、ヒトのグロビンでは Cys α-104 及び Cys β-93、112 の 3 種類のシステイン残基が存在するが、β-125 位にシステインは存在せず化学的な反応を起こさない特性を有している。</p> <p>以上のことから、プレチラクロールのラットヘモグロビンに対する結合性は、種特異的なものであると考えられた。</p>			
ラット及びヒト肝ミクロソームにおける代謝比較 ( <i>in vitro</i> ) GLP (資料 50)		<p>ラット及びヒトの肝ミクロソームにおけるプレチラクロールの代謝を比較することを目的とし、Wistar ラット (雌雄混合) 及びヒト (男女混合) の肝ミクロソームに、<sup>14</sup>C-プレチラクロールを NADPH 生成系存在下、GSH 存在又は非存在下で 10 µmol/L 添加し、37°C で 60 分間インキュベートして <i>in vitro</i> 代謝試験が実施された。</p> <p>未変化のプレチラクロールは GSH 非存在下のラット肝ミクロソームにおいて 0.1% TAR 認められたが、それ以外の反応系では認められなかった。</p> <p>ラット及びヒト肝ミクロソームでは代謝物 K、K1、M6、S 及び Z が主な代謝物として認められ、このうち、M6 はラット肝ミクロソームでのみ認められた。代謝物 K、K1、S 及び Z については、量的な違いがあるものの、ヒトに特異的な代謝物ではなかった。</p>			
子宮肥大ラット GLP (資料 51)		<p>プレチラクロールのエストロゲン様作用について検討するため、卵巣を摘出した SD ラット (一群雌 6 匹) にプレチラクロールを 3 日間強制経口投与 (原体：100、300 及び 1000 mg/kg 体重/日、溶媒：2% CMC 水溶液) し、子宮肥大試験が実施された。陽性対照として、17α-エチニルエストラジオール (0.001 mg/kg 体重/日) が用いられた。</p> <p>1000 mg/kg 体重/日投与群において、体重増加抑制が認められたが、いずれの投与群においても子宮の絶対及び比重量に影響は認められなかったことから、プレチラクロールはエストロゲン様作用を有さないと考えられた。</p>			

<p>Hershberger ラット GLP (資料 52)</p>	<p>①アンドロゲン作用 精巢摘出した SD ラット（一群雄 6 匹）にプレチラクロールを 10 日間強制経口投与（原体：100、300 及び 1000 mg/kg 体重/日、溶媒：2%CMC 水溶液）し、アンドロゲン作用について検討された。陽性対照として、プロピオン酸テストステロン（0.2 mg/kg 体重/日）が用いられた。 100 mg/kg 体重/日以上投与群において体重増加抑制が、300 mg/kg 体重/日以上投与群において肝臓の絶対重量の増加が認められた。 いずれの投与群においてもアンドロゲン依存性器官（尿道球腺、陰茎亀頭等）の絶対重量の増加は認められなかったことから、プレチラクロールはアンドロゲン様作用を有さないと考えられた。</p> <p>②抗アンドロゲン作用 精巢摘出した SD ラット（一群雄 6 匹）にプロピオン酸テストステロンを 0.2 mg/kg 体重/日の用量で皮下投与するとともに、プレチラクロールを 10 日間強制経口投与（原体：100、300 及び 1000 mg/kg 体重/日、溶媒：2%CMC 水溶液）して、抗アンドロゲン作用が検討された。陽性対照として、フルタミド（3 mg/kg 体重/日）が用いられた。 1000 mg/kg 体重/日投与群において体重増加抑制が認められた。また、同群において LABC 筋の絶対重量減少が認められたものの、その他のアンドロゲン依存性器官の重量に変化は認められなかったことから、プレチラクロールは直接的抗アンドロゲン作用又は 5<math>\alpha</math>-還元酵素阻害作用を有さないと考えられた。</p>
<p>エストロゲン受容体 <math>\alpha</math> 転写活性化 (<i>in vitro</i>) GLP (資料 53)</p>	<p>プレチラクロールのヒトエストロゲン受容体 <math>\alpha</math> (hER<math>\alpha</math>) に対する、アゴニスト及びアンタゴニスト作用の有無を検討するため、hER<math>\alpha</math> を導入した安定形質転換細胞 (hER<math>\alpha</math>-HeLa-9903) を用いたレポーター遺伝子アッセイ試験（処理濃度：ER アゴニストアッセイ 0.1 nmol/L～10 <math>\mu</math>mol/L、ER アンタゴニストアッセイ 1 nmol/L～10 <math>\mu</math>mol/L）が実施された。 ER アゴニストアッセイでは陰性、ER アンタゴニストアッセイでは陽性であったことから、プレチラクロールは、hER<math>\alpha</math> に対してアンタゴニスト活性を有すると考えられた。</p>
<p>エストラジオール及びテストステロン産生 (<i>in vitro</i>) (資料 54)</p>	<p>プレチラクロールのエストラジオール及びテストステロン産生能への影響を検討するため、ヒト副腎皮質癌由来細胞 (H295R) を用いたエストラジオール及びテストステロン産生試験（処理濃度：100 pmol/L～10 <math>\mu</math>mol/L）が実施された。プレチラクロールのエストラジオール産生に対する影響は判定できなかった。テストステロン産生に対する影響は陰性と考えられた。</p>
<p>アンドロゲン受容体 転写活性化 (<i>in vitro</i>) GLP (資料 55)</p>	<p>プレチラクロールのアンドロゲン受容体 (AR) に対する、アゴニスト及びアンタゴニスト作用の有無を検討するため、AR-EcoScreen™ 細胞株を用いたレポーター遺伝子アッセイ試験（処理濃度：AR アゴニストアッセイ 0.1 nmol/L～3.16 <math>\mu</math>mol/L、AR アンタゴニストアッセイ 1 nmol/L～3.16 <math>\mu</math>mol/L）が実施された。 いずれの試験においても陰性であり、プレチラクロールは AR に対してアゴニスト活性及びアンタゴニスト活性を有さないと考えられた。</p>
<p>アロマトラーゼ阻害 (<i>in vitro</i>) GLP (資料 56)</p>	<p>プレチラクロールのアロマトラーゼ阻害作用を検討するため、アロマトラーゼ阻害試験（処理濃度：100 pmol/L～31.6 <math>\mu</math>mol/L）が実施された。 いずれの濃度においても陰性であり、プレチラクロールはアロマトラーゼ活性阻害物質ではないと考えられた。</p>

食品安全委員会は、各試験で得られた無毒性量のうち最小値は、ラットを用いた 2 年間反復経口投与毒性/発がん性併合試験の 1.84 mg/kg 体重/日であったことから、これを根拠として、安全係数 100 で除した 0.018 mg/kg 体重/日を許容一日摂取量 (ADI) と設定した。

また、プレチラクロールの単回経口投与等により生ずる可能性のある毒性影響に対する無毒性量又は最小毒性量のうち最小値は、マウスを用いた急性毒性試験における最小毒性量 700 mg/kg 体重であり、無毒性量が得られなかったが、認められた所見のほかの試験における発生状況を総合的に判断し、無毒性量はカットオフ値（500 mg/kg 体重）以上とすることが妥当と考えられた。以上のことから、単回経口投与等により生ずる可能性のある毒性影響に対する無毒性量はカットオフ値（500 mg/kg 体重）以上であったことから、急性参照用量（ARfD）は設定する必要がないと判断した。

### 3. 公表文献における研究結果（資料 57～59）

表 7 に示すデータベース [STN 及び ProQuest Dialog、Web of Science (Core Collection) 並びに J-STAGE] を用いて、それぞれ 2007～2018 年、2018～2022 年及び 2007～2022 年を検索対象期間として、有効成分名及びプレチラクロールを含む製剤名をキーワードとして公表文献を検索し、評価対象となる影響、評価対象の生物種等についてガイドライン<sup>10</sup>で定めるキーワードで絞り込みが行われた。

STN 及び ProQuest Dialog を用いた場合、全文に基づく適合性評価の対象となったヒトに対する毒性の分野（動物を用いた研究、疫学研究等）に該当するとして収集された公表文献 2 報のうち、評価の目的と適合するものとして 2 報を選択した。

Web of Science (Core Collection) を用いた場合、全文に基づく適合性評価の対象となったヒトに対する毒性の分野（動物を用いた研究、疫学研究等）に該当するとして収集された公表文献 1 報のうち、評価の目的と適合するものとして 1 報を選択した。

J-STAGE を用いた場合、全文に基づく適合性評価の対象となるヒトに対する毒性の分野（動物を用いた研究、疫学研究等）に該当する公表文献は 0 報であった。

評価目的との適合性等の観点から、さらに本部会で検討<sup>11</sup>した結果、疫学に関する公表文献 2 報（II. 4. 4-1. 及び 4-2.）を評価に使用するデータと判断した。

なお、プレチラクロールは、欧米で農薬として登録されておらず、JMPR での評価も行われていないため、EFSA、USEPA、JMPR の評価書に引用されている公表文献は検索されなかった。

---

<sup>10</sup> 公表文献の収集、選択等のためのガイドライン（令和 3 年 9 月 22 日 農業資材審議会農薬分科会決定、令和 5 年 7 月 27 日一部改正）

<sup>11</sup> 「農業資材審議会農薬分科会農薬使用者安全評価部会での公表文献の取扱いについて（令和 4 年 9 月 2 日 農業資材審議会農薬分科会農薬使用者安全評価部会決定）」に基づく検討。

表7 プレチラクロールに関する公表文献の検索結果

データベース名	STN、ProQuest Dialog
検索対象期間	2007/1/1～2018/1/31
検索結果	
対象とする農薬名で検索抽出した総論文数	635
ヒトに対する毒性の分野の論文数	2
全文に基づく適合性評価の対象となったヒトに対する毒性の分野の論文数	2
全文に基づく適合性評価の結果、評価の目的と適合するとした文献数	2
評価に用いた文献数	1
データベース名	Web of Science(Core Collection) <sup>a</sup>
検索対象期間	2018/1/11～2022/4/30
検索結果	
対象とする農薬名で検索抽出した総論文数	157
ヒトに対する毒性の分野の論文数	7*
全文に基づく適合性評価の対象となったヒトに対する毒性の分野の論文数	1
全文に基づく適合性評価の結果、評価の目的と適合するとした文献数	1
評価に用いた文献数	1
データベース名	J-STAGE
検索対象期間	2007/4/1～2022/4/30
検索結果	
対象とする農薬名で検索抽出した総論文数	110
ヒトに対する毒性の分野の論文数	33*
全文に基づく適合性評価の対象となったヒトに対する毒性の分野の論文数	0
全文に基づく適合性評価の結果、評価の目的と適合するとした文献数	0
評価に用いた文献数	0

<sup>a</sup> : Web of Science による公表文献数は2回実施された検索の合計数（重複を含む。）

\* : 他の評価分野との重複あり

## 4. ヒトにおける知見

### 4-1. 疫学研究

提出された疫学研究に該当する文献について、プレチラクロールへの暴露と健康影響との関連について検討した。

健康関連の事象（疾病等）との関連が検討された文献は、子宮内膜の厚さ減少等の1報であった。

#### ① 子宮内膜の厚さ減少等との関連（資料 60）

エジプトにおいて、2010年4月～2013年7月に大学附属不妊治療センターを受診した20～38歳の女性（不妊カップル300組）で男性因子による不妊で顕微受精を受け研究参加に同意した150組のうち、解析に必要な卵胞液量が採取できている女性94人が本横断研究の対象となった。卵細胞質内精子注入中に採取した卵胞液中のクロロアセトアリニド（プレチラクロール）1種を含む農薬の濃度をガスクロマトグラフィー／質量分析計を用いて推計し、子宮内膜の厚さ、採卵数、受精卵数、分割胚数及び胎のう数との関連が重回帰分析により検討された。

卵胞液中のプレチラクロール濃度については、子宮内膜の厚さ、採卵数、受精卵数及び分割胚数との間に負の相関が認められた。（論文の表中では正の相関とされている。）

本研究には、サンプルサイズが大きいこと、パートナーの精子の質に与える影響を評価していないこと等の限界があると考えられた。また、表の値と論文中の結果の記述に矛盾点が認められている。

これらのことから、本部会では、子宮内膜の厚さ減少等とプレチラクロール暴露との因果関係に関する証拠は不十分であると判断した。

### 4-2. 中毒事例（ヒト）（資料 61）

ヒトにおける中毒事例（経口摂取）で認められた影響等について、表8に示されている。

表8 ヒトにおける中毒事例（経口摂取）で認められた影響等

患者情報	摂取量	認められた影響等
42歳男性 (ネパール)	50%製剤 250 mL	摂取2時間までに、嘔吐、過剰な流涙、便及び尿失禁、めまい等の有機リン中毒類似症状を呈し、摂取2時間後に入院。 アトロピン、輸液及び制吐剤投与後、徐々に症状改善。 入院3日後に退院。

### III. 農薬使用者暴露許容量 (AOEL)

急性毒性試験の結果において、経皮又は吸入経路特異的な毒性は見られなかったこと及び農薬としての使用方法から、プレチラクロールの農薬使用者暴露許容量 (AOEL) の設定に当たっては、経皮又は吸入経路特異的な毒性を考慮する必要はないと判断した。また、ヒトにおける知見について、プレチラクロールの農薬使用を通じた暴露に係る健康影響への懸念を示す所見はなかった。よって経口投与による短期毒性試験、生殖・発生毒性試験及び神経毒性試験の結果に基づき AOEL を設定する (表 10)。

ラットを用いた 2 世代繁殖毒性試験において、300 ppm 投与群の親動物雌で認められた肝比重量増加及び腎比重量増加並びに児動物雌雄で認められた肝比重量増加により無毒性量が設定できなかった (300 ppm 未満) が、ラットを用いた他の試験 (90 日間反復経口投与毒性試験及び 2 年間反復経口投与毒性/発がん性併合試験) の最小毒性量 (それぞれ 1000 ppm 及び 300 ppm) を考慮すると無毒性量は 300 ppm 近辺 (約 20 mg/kg 体重/日<sup>12</sup>) であると考えられた。

このため、各試験で得られたプレチラクロールの無毒性量のうち最小値は、イヌを用いた 1 年間反復経口投与毒性試験の雄における嘔吐に基づく無毒性量 8.49 mg/kg 体重/日であると判断した。

また、最小の無毒性量に近い投与量におけるラットを用いた動物代謝試験の経口吸収率は、胆汁中排泄試験の 0.5 mg/kg 体重投与群の 60.6~86.8%であったが (表 9)、投与後 48 時間の試験群は消化管残存率が高く吸収が完了しておらず、投与後 72 時間の試験群は消化管残存率が十分に低く吸収が完了していると考えられた (表 3、表 5)。このため、AOEL の設定に当たっては、吸収が完了していると考えられた投与後 72 時間試験群の雌雄の経口吸収率 85.4~86.8%を用いることが妥当であると判断し、80%を超えることから、経口吸収率による補正は必要ないと判断した。

表 9 プレチラクロールを単回経口投与した場合の経口吸収率 (%)

投与量	0.5 mg/kg体重			100 mg/kg体重		
	48時間	72時間		48時間	72時間	
性別	雄	雄	雌	雄	雄	雌
経口吸収率 (%)	60.6	86.8	85.4	37.6	90.7	91.7
総回収率 (%)	96.5	96.8	96.4	96.2	101	100

表の値は 0.5 mg/kg 体重投与群の投与後 48 時間及び 72 時間並びに 100 mg/kg 体重投与群の投与後 72 時間は 4 匹の平均値、100 mg/kg 体重投与群の投与後 48 時間は 5 匹の平均値

<sup>12</sup> Guidance document for WHO monographers and reviewers(WHO/HSE/FOS/2015.1), Table1. Approximate relationship of mg/kg (ppm) in the diet to mg/kg bw per day, Rat(multigeneration studies):1 mg/kg in feed = 0.066 mg/kg bw per day

以上の結果から、イヌを用いた 1 年間反復経口投与毒性試験の無毒性量 8.49 mg/kg 体重/日を安全係数 100 で除した 0.085 mg/kg 体重/日を農薬使用者暴露許容量 (AOEL) と設定した。

AOEL	0.085 mg/kg 体重/日
(AOEL 設定根拠試験)	反復経口投与毒性試験
(動物種)	イヌ
(期間)	1 年間
(投与方法)	混餌
(無毒性量)	8.49 mg/kg 体重/日
(毒性所見)	嘔吐
(安全係数)	100
(経口吸収率)	補正しない

表 10 AOEL の設定に関連する毒性影響等

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	NOAEL (mg/kg 体重/ 日)	LOAEL (mg/kg 体重/ 日)	AOEL 設定に関連する エンドポイント*
ラット	90 日間 反復経口 投与毒性 非 GLP (資料 24)	雌雄：0、100、300、1000、 3000 ppm 雄：0、6.3、19.2、63.3、 196 雌：0、7.0、21.8、75.1、 251	雄：63.3 雌：21.8	雄：196 雌：75.1	雄：肝及び腎絶対及び比重量 増加、T.Chol 増加 雌：体重増加抑制
	2 世代 繁殖毒性 GLP (資料 43)	雌雄：0、300、1000、 3000 ppm P 雄：0、20.7、69.6、206 P 雌：0、26.4、86.6、267 F <sub>1</sub> 雄：0、25.4、83.3、262 F <sub>1</sub> 雌：0、29.0、94.0、301 F <sub>2</sub> 雄：0、26.5、85.9、272 F <sub>2</sub> 雌：0、28.7、94.6、295	親動物： P 雄：69.6 P 雌：－ F <sub>1</sub> 雄：83.3 F <sub>1</sub> 雌：－ F <sub>2</sub> 雄：85.9 F <sub>2</sub> 雌：－ 児動物： P 雄：－ P 雌：－ F <sub>1</sub> 雄：－ F <sub>1</sub> 雌：－ F <sub>2</sub> 雄：－ F <sub>2</sub> 雌：－	親動物： P 雄：206 P 雌：26.4 F <sub>1</sub> 雄：262 F <sub>1</sub> 雌：29.0 F <sub>2</sub> 雄：272 F <sub>2</sub> 雌：28.7 児動物： P 雄：20.7 P 雌：26.4 F <sub>1</sub> 雄：25.4 F <sub>1</sub> 雌：29.0 F <sub>2</sub> 雄：26.5 F <sub>2</sub> 雌：28.7	親動物 雄：体重増加抑制等 雌：肝及び腎比重量増加 児動物 雌雄：肝比重量増加 繁殖能に対する影響は認めら れなかった。
	発生毒性 非 GLP (資料 44)	0、75、150、300 (妊娠 7～17 日投与)	母動物：75 胎 児：300	母動物：150 胎 児：－	母動物：脾比重量増加 胎児：毒性所見なし 催奇形性は認められなかつ た。
	90 日間 反復経口 投与神経 毒性 GLP (資料 47)	雌雄：0、200、1000、5000 ppm 雄：0、13.7、66.6、357 雌：0、15.2、77.1、431	雄：66.6 雌：77.1	雄：357 雌：431	雌雄：体重増加抑制等 神経毒性は認められなかつ た。
ウサギ	発生毒性 GLP (資料 45)	0、75、150、300 (妊娠 6～19 日投与)	母動物：75 胎 児：300	母動物：150 胎 児：－	母動物：体重増加抑制等 胎児：毒性所見なし 催奇形性は認められなかつ た。
イヌ	6 か月間 反復経口 投与毒性 非 GLP (資料 25)	雌雄：0、30、300、1000 ppm 雄：0、1.3、12、45 雌：0、1.5、13、49	雄：12 雌：13	雄：45 雌：49	雄：体重増加抑制及び ALP 増 加 雌：ALP 増加
	1 年間 反復経口 投与毒性 GLP	雌雄：0、25、50、300、1500 ppm 雄：0、0.71、1.47、8.49、	雄：8.49 雌：8.90	雄：43.6 雌：47.8	雄：嘔吐 雌：ALP 増加

	(資料 26)	43.6 雌 : 0、0.78、1.55、8.90、 47.8			
--	---------	---------------------------------------	--	--	--

\* : 最小毒性量で認められた毒性所見を記した。

#### IV. 急性農薬使用者暴露許容量 (AAOEL)

プレチラクロールの単回経口投与等により生ずる可能性のある毒性影響（表 11）に対する無毒性量又は最小毒性量のうち最小値は、マウスを用いた急性経口毒性試験における最小毒性量 700 mg/kg 体重であり、無毒性量が得られなかったが、認められた所見の他の試験における発生状況を総合的に判断し、無毒性量は ARfD のカットオフ値（500 mg/kg 体重）以上とすることが妥当と考えられた。以上のことから、急性農薬使用者暴露許容量（AAOEL）は設定する必要がないと判断した。

AAOEL

設定の必要なし

表 11 AAOEL の設定に関連する毒性影響等

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重)	無毒性量及び AAOEL に 関連するエンドポイント* (mg/kg 体重)
ラット	急性経口毒性 非 GLP(資料 7) GLP(資料 8) GLP(資料 9)	雄: 2100、2500、3000、3600、4300、 5200 雌: 1700、2100、2500、3000、3600、 4300	— 嘔吐、立毛、全身性痙攣、失禁
		雌: 2000	2000 毒性所見なし
		雌: 2000	— 円背位
	急性神経毒性 GLP(資料 46)	雌雄: 0、150、500、1500	1500 毒性所見なし
マウス	急性経口毒性 非 GLP(資料 10) GLP(資料 11)	雄: 1700、2100、2500、3000、3600、 4300 雌: 1200、1500、1700、2100、2500、 3000	— 嘔吐、立毛、全身性痙攣、失禁
		雌雄: 700、910、1183、1538、2000、 2600	— 下痢
	一般薬理試験 (一般状態) 非 GLP(資料 48)	0、1000、2000、4000	— 自発運動低下
	一般薬理試験 (自発運動量) 非 GLP(資料 48)	0、1000、2000、4000	1000 軽度の自発運動量減少

—: 無毒性量は設定できなかった。

\*: 最小毒性量で認められた毒性所見を記した。

## V. 暴露量の推計

### 1. 経皮吸収試験

プレチラクロールを含有する農薬製剤で実施した経皮吸収試験結果は提出されていない。

### 2. 圃場における農薬使用者暴露

プレチラクロールを含有する農薬製剤で実施した圃場における農薬使用者暴露試験結果は提出されていない。

### 3. 暴露量の推計

申請された製剤について、I. の 5. 適用病害虫雑草等の範囲及び使用方法（別添 1）に従って使用した場合の暴露量を予測式により推計した。

推計に当たっては、「農薬使用者への影響評価ガイダンス」及び「予測式に分類していない使用方法についての使用者安全確保の考え方」（令和 4 年 12 月 1 日農業資材審議会農薬分科会農薬使用者安全評価部会決定、令和 6 年 10 月 24 日最終改訂）（以下「部会決定」という。）に準拠した。

推計に用いたパラメータ等及び暴露量の推計結果を別添 2 に示す。

## VI. リスク評価結果

I. の 5. 適用病害虫雑草等の範囲及び使用方法（別添 1）に従って使用した場合の暴露量は、AOEL を下回っていた（別添 2）。

## 評価資料

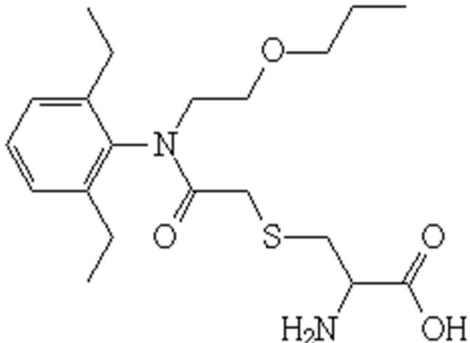
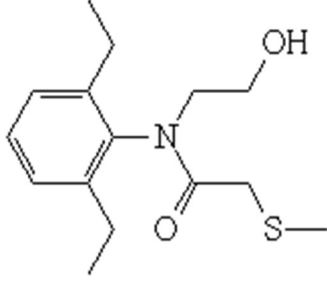
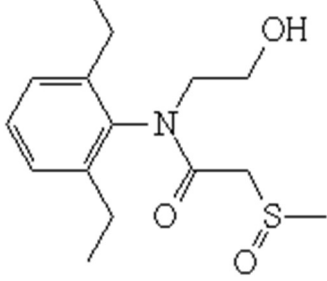
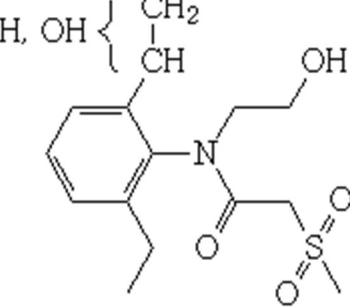
資料 番号	報告年	表題、出典（試験施設以外の場合） GLP 適合状況（必要な場合）、公表の有無
1	2024	農薬評価書 プレチラクロール 食品安全委員会、公表 URL : <a href="https://www.fsc.go.jp/fsciis/attachedFile/download?retrievalId=kya20240207012&amp;fileId=210">https://www.fsc.go.jp/fsciis/attachedFile/download?retrievalId=kya20240207012&amp;fileId=210</a>
2	1997	Absorption, distribution and excretion of [phenyl-u- <sup>14</sup> C] CGA 26423 in the rat GLP、未公表
3	1978	Distribution, Degradation and Excretion of CGA 26423 in the rat 非 GLP、未公表
4	2016	Pretilachlor – The Absorption and Excretion of [ <sup>14</sup> C]-Pretilachlor Following Single Oral Administration in the Rat GLP、未公表
5	1980	Metabolism of CGA 26423 in the rat. 非 GLP、未公表
6	2018	Pretilachlor – Biotransformation of <sup>14</sup> C-Pretilachlor in the Rat GLP、未公表
7	1979	ラットにおける CGA26423 「CG113」 原体の急性経口毒性試験報告書 非 GLP、未公表
8	2010	Pretilachlor Tech. – Acute Oral Toxicity Study in the Rat (Up and Down Procedure) GLP、未公表
9	2020	Pretilachlor – Acute Oral Toxicity Study in Rats (Up and Down Procedure) GLP、未公表
10	1979	マウスにおける CGA26423 「CG113」 原体の急性経口毒性試験報告書 非 GLP、未公表
11	1986	プレチラクロール原体のマウスにおける急性経口毒性試験報告書 GLP、未公表
12	1980	ラットにおける CGA26423 「CG113」 原体の急性経皮毒性試験報告書 非 GLP、未公表
13	2010	Pretilachlor Tech. - Acute Dermal Toxicity Study in Rats GLP、未公表
14	2011	Pretilachlor Tech. - Acute Inhalation Toxicity Study (Nose-Only) in the Rat GLP、未公表
15	1980	ラットにおける CGA26423 「CG113」 原体の急性皮下毒性試験報告書 非 GLP、未公表
16	1980	マウスにおける CGA26423 「CG113」 原体の急性皮下毒性試験報告書 非 GLP、未公表
17	1979	ラットにおける CGA26423 「CG113」 原体の急性腹腔内毒性試験報告書 非 GLP、未公表
18	1979	マウスにおける CGA26423 「CG113」 原体の急性腹腔内毒性試験報告書 非 GLP、未公表
19	2011	Pretilachlor Tech. - Primary Skin Irritation Study in Rabbits GLP、未公表

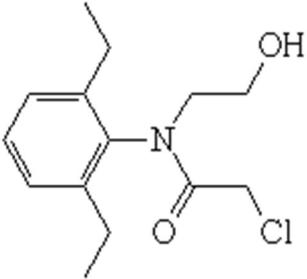
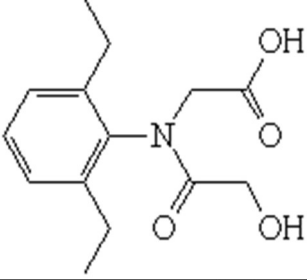
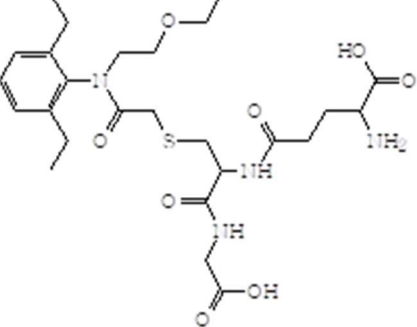
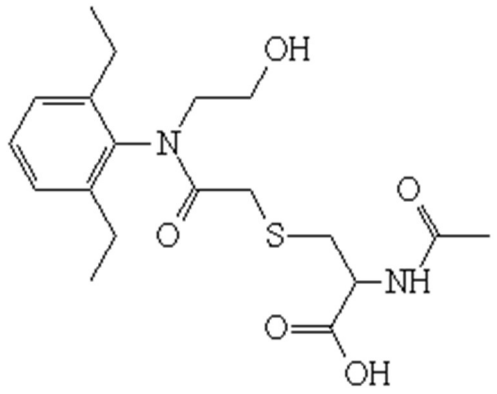
資料 番号	報告年	表題、出典（試験施設以外の場合） GLP 適合状況（必要な場合）、公表の有無
20	2010	Pretilachlor Tech. - Acute Eye Irritation Study in Rabbits GLP、未公表
21	1979	Skin sensitizing (contact allergenic) effect in Guinea pigs of technical CGA 26423 非 GLP、未公表
22	1988	プレチラクロール原体のモルモットにおける皮膚感作反応におよぼす誘発量の影響 GLP、未公表
23	2010	Pretilachlor Tech. - Local Lymph Node Assay in the Mouse GLP、未公表
24	1983	CGA26423 のラットを用いた3ヶ月間亜慢性毒性試験 非 GLP、未公表
25	1978	CGA 26423: Toxicity in dietary administration to dogs for twenty-six weeks with a four-week period of recovery 非 GLP、未公表
26	1997	12-Month chronic dietary toxicity study in Beagle dogs GLP、未公表
27	1980	CGA26423 の細菌を用いた変異原性試験報告 非 GLP、未公表
28	1980	CGA26423 の細菌を用いた変異原性試験報告 非 GLP、未公表
29	1979	SALMONELLA/MAMMALIAN-MICROSOME MUTAGENICITY TEST WITH CGA26423 (Test for mutagenic properties in bacteria) 非 GLP、未公表
30	2017	Pretilachlor - <i>Salmonella Typhimurium</i> and <i>Escherichia Coli</i> Reverse Mutation Assay GLP、未公表
31	1988	Chromosome Studies on Chinese Hamster Ovary Cell Line CCL 61 In Vitro GLP、未公表
32	2013	Pretilachlor - In Vitro Chromosome Aberration Test in Human Lymphocytes GLP、未公表
33	2017	Pretilachlor – Gene Mutation Assay in Chinese Hamster V79 Cells In Vitro (V79/HPRT) GLP、未公表
34	2002	Pretilachlor: Rat bone marrow micronucleus test GLP、未公表
35	2013	Pretilachlor – Micronucleus Assay in Bone Marrow Cells of the Rat GLP、未公表
36	1985	CGA26423 のマウスを用いた小核試験 GLP、未公表
37	2019	Pretilachlor - Comet Assay In Vivo Alkaline Single Cell Gel Electrophoresis in Rat Liver, Small Intestine and Stomach, Final Report Amendment 1 GLP、未公表
38	2021	<i>In Vivo</i> Mutation Assay of Pretilachlor at the <i>cII</i> Locus in Big Blue® Transgenic F344 Rats GLP、未公表
39	2022	<i>In Vivo</i> Gene Mutation Assay of Pretilachlor (Spiked TGAI) in MutaMouse GLP、未公表

資料 番号	報告年	表題、出典（試験施設以外の場合） GLP 適合状況（必要な場合）、公表の有無
40	1982	Pretilachlor (CGA-26423) のラットを用いた2ヶ年慢性経口毒性試験 非GLP、未公表
41	1984	CGA-26423ラットを用いた慢性毒性および催腫瘍性試験 非GLP、未公表
42	1982	CGA-28423のマウスを用いた慢性毒性試験 非GLP、未公表
43	1985	CGA 26423 techn. Effect on three generations of the rat. GLP、未公表
44	1980	農薬CGA-26423 (Pretilachlor) のラットにおける催奇形性試験・器官形成期投与試験報告書 非GLP、未公表
45	1987	CGA 26423 - Teratology study in the rabbit by the oral route GLP、未公表
46	2003	PRETILACHLOR: Acute Neurotoxicity Study in Rats GLP、未公表
47	2006	Pretilachlor:90 Day Dietary Neurotoxicity Study In Rats GLP、未公表
48	1980	CGA-26423（一般名：Pretilachlor; 化学名: 2-Chloro-2',6'-diethyl-N-(n-propoxyethyl) acetanilide) の一般薬理作用 非GLP、未公表
49	1997	Binding of [Phenyl-U- <sup>14</sup> C] CGA 77102 to rat and human blood in vitro GLP、未公表
50	2018	The Comparative Metabolism of [ <sup>14</sup> C]-Pretilachlor in Rat and Human Hepatic Microsomes GLP、未公表
51	2021	A Uterotrophic Assay of Pretilachlor Administered Orally in Ovariectomized Rats GLP、未公表
52	2021	A Hershberger Assay of Pretilachlor Administered Orally in Peripubertal Orchidectomy-mutilated Rats GLP、未公表
53	2021	Evaluation of the Estrogen Receptor Agonist and Antagonist Activity of Pretilachlor using the Stably Transfected Human Estrogen Receptor- $\alpha$ Transactivation Assay (hER $\alpha$ -HeLa-9903 Cell Line) GLP、未公表
54	2021	Pretilachlor - Screening for the Potential to Modulate Steroidogenesis In Vitro using the Human H295R Adreno-Carcinoma Cell Line GLP、未公表
55	2021	Evaluation of the Androgen Receptor Agonist and Antagonist Activity of Pretilachlor using the Stably Transfected Human Androgen Receptor Transcriptional Activation Assay (AR-EcoScreen™) GLP、未公表
56	2021	Pretilachlor - <i>In Vitro</i> Aromatase Inhibition using Human Recombinant Microsomes GLP、未公表
57	2022	プレチラクロール公表文献報告書 URL : <a href="https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/saihyoka/attach/pdf/saihyouka_ha-9.pdf">https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/saihyoka/attach/pdf/saihyouka_ha-9.pdf</a>
58	2023	プレチラクロール公表文献報告書（追補） URL : <a href="https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/saihyoka/attach/pdf/saihyouka_ha-10.pdf">https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/saihyoka/attach/pdf/saihyouka_ha-10.pdf</a>

資料 番号	報告年	表題、出典（試験施設以外の場合） GLP 適合状況（必要な場合）、公表の有無
59	2022	プレチラクロール公表文献報告書 URL : <a href="https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/saihyoka/attach/pdf/saihyouka_ha-16.pdf">https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/saihyoka/attach/pdf/saihyouka_ha-16.pdf</a>
60	2018	The effect of follicular fluid pesticides and polychlorinated biphenyls concentrations on intracytoplasmic sperm injection (ICSI) embryological and clinical outcome. <i>European Journal of Obstetrics &amp; Gynecology and Reproductive Biology</i> . 2018; 220: 39-43
61	2020	Pretilachlor poisoning: A rare case of a herbicide masquerading as organophosphate toxicity. <i>Clinical Case Report</i> . 2020;8(12):3506-3508
62	2022	プレチラクロールの試験成績の概要及び考察 未公表

別紙1 代謝物記号

記号	化学名	構造式
B	2-アミノ-3-[[2,6-ジエチルフェニル)-(2-プロポキシエチル)-カルバモイル]-メチルスルファニル]-プロピオン酸	
B1	Bの脱プロピル化体	—
C	N-(2,6-ジエチルフェニル)-N-(2-ヒドロキシエチル)-2-メチルスルファニル-アセトアミド	
D	N-(2,6-ジエチルフェニル)-N-(2-ヒドロキシエチル)-2-メタンスルフィニル-アセトアミド	
E	水酸化位置未決定のため命名不可	

K	2-クロロ-N-(2,6-ジエチルフェニル)-N-(2-ヒドロキシエチル)-アセトアミド	
K1	デスプロピルヒドロキシプレチラクロール (Kのモノヒドロキシ化体)	—
L	[(2,6-ジエチルフェニル)-(2-ヒドロキシアセチル)-アミノ]-酢酸	
S	2-アミノ-4-(1-(カルボキシメチルカルバモイル)-2-[[[(2,6-ジエチルフェニル)-(2-プロポキシエチル)-カルバモイル]-メチルスルファニル]-エチルカルバモイル)-酪酸	
U	2-アセチルアミノ-3-[[[(2,6-ジエチルフェニル)-(2-ヒドロキシエチル)-カルバモイル]-メチルスルファニル]-プロピオン酸	
Z	ジヒドロキシプレチラクロール (プレチラクロールのジヒドロキシ化体)	—

## 別紙2 用語及び略語

AAOEL	Acute Acceptable Operator Exposure Level	急性農薬使用者暴露許容量
ACh	acetylcholine	アセチルコリン
ADI	Acceptable Daily Intake	許容一日摂取量
Adr	adrenaline	アドレナリン
Alb	albumin	アルブミン
ALP	alkaline phosphatase	アルカリホスファターゼ
AOEL	Acceptable Operator Exposure Level	農薬使用者暴露許容量
AR	androgen receptor	アンドロゲン受容体
ARfD	Acute Reference Dose	急性参照用量
BUN	blood urea nitrogen	血液尿素窒素
Cre	creatinine	クレアチニン
CMC	carboxymethyl cellulose	カルボキシメチルセルロース
ER	estrogen receptor	エストロゲン受容体
GGT	$\gamma$ -glutamyltransferase ( $\gamma$ -glutamyltranspeptidase)	$\gamma$ -グルタミルトランスフェラーゼ ( $\gamma$ -グルタミルトランスペプチダーゼ( $\gamma$ -GTP))
GLP	Good laboratory practice	優良試験所規範
Glu	glucose	グルコース (血糖)
GSH	reduced glutathione	還元型グルタチオン
His	histamine	ヒスタミン
LC <sub>50</sub>	median lethal concentration	半数致死濃度
LD <sub>50</sub>	median lethal dose	半数致死量
LLNA	Local Lymph Node Assay	局所リンパ節試験
LOAEL	Lowest-Observed-Adverse-Effect Level	最小毒性量
LOEL	Lowest-Observed-Effect-Level	最小影響量
NADPH	nicotinamide adenine dinucleotide phosphate	ニコチンアミドアデニンジヌクレオチドリ ン酸
NOAEL	No-Observed-Adverse-Effect-Level	無毒性量

NOEL	No-Observed-Effect-Level	無作用量
Oxt	oxytocin	オキシトシン
ppm	parts per million	百万分の1 (10 <sup>-6</sup> )
TAR	Total Applied Radioactivity	総投与（処理） 放射性物質
T.Chol	total cholesterol	総コレステロール
TP	total protein	総蛋白質

別添1：適用病害虫雑草等の範囲及び使用方法（プレチラクロール）

目次

1. 登録番号 15986：石原ワンオール粒剤 （ピラゾキシフェン 6.0 %・プレチラクロール 1.5 %粒剤） .....	4
2. 登録番号 16664：クサホープD粒剤 （ジメタメトリン 0.20 %・ピラズレート 6.0 %・プレチラクロール 1.5 %粒剤） .....	4
3. 登録番号 16669：バレージ粒剤、 登録番号 21616：協友バレージ粒剤、 登録番号 21723：S Tバレージ粒剤 （ジメタメトリン 0.10 %・プレチラクロール 2.0 %粒剤） .....	5
4. 登録番号 18163：エリジャン乳剤（プレチラクロール 12.0 %乳剤） .....	5
5. 登録番号 18225：スパークスター粒剤 （エスプロカルブ 5.0 %・ジメタメトリン 0.20 %・ピラズスルフロネチ 0.070 %・プレチラク ロール 1.5 %粒剤） .....	6
6. 登録番号 18541：シング乳剤、 登録番号 22680：ホクサンシング乳剤 （ピリブチカルブ 12.0 %・プレチラクロール 8.0 %乳剤） .....	6
7. 登録番号 18567：ソルネット1キロ粒剤（プレチラクロール 4.0 %粒剤） .....	7
8. 登録番号 18677：ウリホス粒剤15 （ジメタメトリン 0.20 %・ピラズレート 8.0 %・プレチラクロール 1.5 %・ベンフレセート 1.5 %粒剤） .....	7
9. 登録番号 18678：ウリホス粒剤15 （ジメタメトリン 0.20 %・ピラズレート 8.0 %・プレチラクロール 1.5 %・ベンフレセート 1.5 %粒剤） .....	8
10. 登録番号 18680：ウリホス粒剤10 （ジメタメトリン 0.20 %・ピラズレート 4.0 %・プレチラクロール 1.5 %・ベンフレセート 1.0 %粒剤） .....	8
11. 登録番号 18717：ホクコーユニハーブフロアブル （プレチラクロール 5.0 %・ベンゾフェナップ 20.0 %水和剤） .....	9
12. 登録番号 18897：石原ワンオールS1キロ粒剤 （シメトリン 1.5 %・ピラゾキシフェン 18.0 %・プレチラクロール 4.5 %粒剤） .....	9
13. 登録番号 18913：パデホープ1キロ粒剤、 登録番号 18914：SDSパデホープ1キロ粒剤 （ダイムロン 15.0 %・プレチラクロール 3.0 %粒剤） .....	10

1 4. 登録番号 19214 : ホクト粒剤 (シハロホップブチル 0.60 %・ジメタメトリン 0.20 %・ピラゾスルフロンエチル 0.070 %・プレチラクロール 1.5 %粒剤) .....	10
1 5. 登録番号 20846 : シンジェンタ・ホクト粒剤 (シハロホップブチル 0.60 %・ジメタメトリン 0.20 %・ピラゾスルフロンエチル 0.070 %・プレチラクロール 1.5 %粒剤) .....	11
1 6. 登録番号 19749 : ウリホス 1 キロ粒剤 (ジメタメトリン 0.60 %・ピラゾレート 18.0 %・プレチラクロール 3.0 %・ベンフレセート 3.0 %粒剤) .....	11
1 7. 登録番号 20292 : ウリホスフロアブル (ジメタメトリン 0.60 %・ピラゾレート 18.0 %・プレチラクロール 3.0 %・ベンフレセート 3.0 %水和剤) .....	12
1 8. 登録番号 20656 : ウリホスジャンボ (ジメタメトリン 1.0 %・ピラゾレート 30.0 %・プレチラクロール 5.0 %・ベンフレセート 5.0 %粒剤) .....	12
1 9. 登録番号 20963 : エリジャンジャンボ (プレチラクロール 15.0 %粒剤) .....	13
2 0. 登録番号 21299 : クサトッタ 1 キロ粒剤、 登録番号 22459 : M I C スラッシュャ 1 キロ粒剤 (ジメタメトリン 0.60 %・ピラゾレート 12.0 %・プレチラクロール 4.5 %・ブロモブチド 6.0 %粒剤) .....	13
2 1. 登録番号 21300 : クサトッタ粒剤、 登録番号 22421 : M I C スラッシュャ粒剤 (ジメタメトリン 0.20 %・ピラゾレート 4.0 %・プレチラクロール 1.5 %・ブロモブチド 2.0 %粒剤) .....	14
2 2. 登録番号 21587 : 協友農将軍フロアブル (ジメタメトリン 0.5 %・ピリブチカルブ 10.0 %・プレチラクロール 5.0 %水和剤) .....	14
2 3. 登録番号 22138 : エリジャンEW乳剤 (プレチラクロール 38.5 %乳剤) .....	15
2 4. 登録番号 22142 : クサナイト粒剤 (ピラゾキシフェン 6.0 %・プレチラクロール 1.5 %粒剤) .....	15
2 5. 登録番号 22694 : マキシーMX 1 キロ粒剤 (プレチラクロール 4.2 %・メソトリオン 0.60 %粒剤) .....	15
2 6. 登録番号 23326 : 葉がくれ 1 キロ粒剤 (シクロスルフアムロン 0.50 %・プレチラクロール 6.0 %粒剤) .....	16
2 7. 登録番号 23327 : かねつぐ 1 キロ粒剤 (シクロスルフアムロン 0.40 %・プレチラクロール 4.0 %粒剤) .....	16
2 8. 登録番号 23439 : ロータスMX 1 キロ粒剤、 登録番号 23452 : アピログロウMX 1 キロ粒剤	

	(ピラゾスルフロンエチル 0.30 %・ピリフタリド 1.5 %・プレチラクロール 4.5 %・メソトリオン 0.90 %粒剤) .....	17
29.	登録番号 23440 : ロータスMX ジャンボ、 登録番号 23453 : アピログロウMX ジャンボ (ピラゾスルフロンエチル 0.75 %・ピリフタリド 3.75 %・プレチラクロール 11.25 %・メソトリオン 2.25 %粒剤) .....	18
30.	登録番号 23588 : かねつぐーラジカルジャンボ (シクロスルファミロン 1.67 %・プレチラクロール 20.0 %粒剤) .....	19
31.	登録番号 23613 : OATシェリフ1キロ粒剤 (イマズスルフロン 0.90 %・シハロホップブチル 1.8 %・ジメタメトリン 0.60 %・プレチラクロール 4.5 %粒剤) .....	20
32.	登録番号 24361 : アピログロウMXエアー粒剤 (ピラゾスルフロンエチル 0.75 %・ピリフタリド 3.75 %・プレチラクロール 11.25 %・メソトリオン 2.25 %粒剤) .....	21
33.	登録番号 24651 : メガオスMX1キロ粒剤 (ピリフタリド 1.2 %・プレチラクロール 4.6 %・ベンスルフロンメチル 0.51 %・メソトリオン 0.90 %粒剤) .....	22

## 1. 登録番号 15986 : 石原ワンオール粒剤

(ピラゾキシフェン 6.0 %・プレチラクロール 1.5 %粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカ ヘラオモダカ ミスガヤツリ ヒルムシロ	移植直後～ ルビエ2葉期 但し、移植後 30日まで	砂壤土 ～ 埴土	3～4 kg	1回	湛水散布	全域(北海道を除く)の普通期及び早期栽培地帯
いぐさ	水田一年生雑草	植付後～スズメ テッポウ3葉期 または ルビエ1.5葉期 まで	壤土 ～ 埴土	3 kg	2回以内	湛水土壌 処理	全域

ピラゾキシフェンを含む 農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内

## 2. 登録番号 16664 : クサホープD粒剤

(ジメタメトリン 0.20 %・ピラゾレート 6.0 %・プレチラクロール 1.5 %粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稻	一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカ ヘラオモダカ ミスガヤツリ ヒルムシロ アオミドロ・藻類に よる表層はく離 オモダカ ウキカサ	移植後3日～ ルビエ2葉期 ただし、移植後30 日まで	3 kg/10 a	1回	湛水散布

ジメタメトリンを含む 農薬の総使用回数	ピラゾレートを 含む 農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内

3. 登録番号 16669 : バレージ粒剤、  
 登録番号 21616 : 協友バレージ粒剤、  
 登録番号 21723 : S Tバレージ粒剤

(ジメタメトリン 0.10 %・プレチラクロール 2.0 %粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ジメタメトリンを含む農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む農薬の総使用回数
移植水稻	一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミスガヤツリ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植後 3 日 ~10 日(ビエ の 1.5 葉期 まで)	3 kg/10 a	1 回	湛水 散布	2 回以内	2 回以内

4. 登録番号 18163 : エリジャン乳剤 (プレチラクロール 12.0 %乳剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	プレチラクロールを含む農薬の総使用回数
移植水稻	一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ	植代後 ~ 移植 7 日前まで	300 mL/10 a	1 回	原液 湛水 散布	2 回以内
		移植直後~ビエ1 葉期 ただし、移植後 30 日 まで				

5. 登録番号 18225 : スパークスター粒剤

(エスプロカルブ 5.0 % ・ ジメタメトリン 0.20 % ・ ピラゾスルフロンエチ 0.070 % ・ プレチラクロール 1.5 % 粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稻	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ(北海道を除く) ハラモタカ クログワイ(北海道を除く) オモダカ(北海道を除く) ヒルムシロ シズイ(東北) セリ(九州を除く) エゾノヤサカグサ(北海道) アオミドロ・藻類による表層はく離	移植後 5 日～ ルビエ 2.5 葉期 ただし、移植後 30 日まで	砂壤土 ～ 埴土	3 kg/10 a	1 回	湛水 散布	全域の 普通期 及び 早期栽培地帯

エスプロカルブを含む 農薬の総使用回数	ジメタメトリンを含む 農薬の総使用回数	ピラゾスルフロンエチを含む 農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数
1 回	2 回以内	1 回	2 回以内

6. 登録番号 18541 : シング乳剤、

登録番号 22680 : ホクサンシング乳剤

(ピリブチカルブ 12.0 % ・ プレチラクロール 8.0 % 乳剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ミスガヤツリ ハラモタカ	植代後～移植 7 日前まで	500 mL/10 a	1 回	原液湛水散布
		植代時 (移植 7 日前まで)			植代時に原液 のまま散布し 混和する
	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ミスガヤツリ	植代後～移植 7 日前まで	300 mL/10 a (少量散布)		原液湛水散布
		移植直後～ルビエ 1 葉期 ただし、移植後 30 日まで			

ピリブチカルブを含む 農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数
2 回以内	2 回以内

7. 登録番号 18567 : ソルネット 1 キロ粒剤 (プレチラクロール 4.0 %粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	プレチラクロールを含む農薬の総使用回数
移植水稻	一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミスガヤツリ	植代後~移植前 7 日	1 kg/10 a	1 回	湛水散布	2 回以内
		移植直後~ルビエ 1 葉期 ただし、移植後 30 日 まで				
		移植時			田植同時散布機で施用	

8. 登録番号 18677 : ウリホス粒剤 1 5

(ジメタメトリン 0.20 %・ピラゾレート 8.0 %・プレチラクロール 1.5 %・ベンフレート 1.5 %粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ヘラオモダカ ヒルムシロ エゾノサヤカゲサ アオトリロ・藻類による表層 はく離	移植後 5 日~ ルビエ 2 葉期 ただし、 移植後 30 日 まで	壤土~埴土	3 kg/10 a	1 回	湛水 散布	北海道

ジメタメトリンを含む農薬の総使用回数	ピラゾレートを含有する農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む農薬の総使用回数	ベンフレートを含有する農薬の総使用回数
2 回以内	2 回以内	2 回以内	2 回以内

9. 登録番号 18678 : ウリホス粒剤 15

(ジメタメトリン 0.20%・ピラゾレート 8.0%・プレチラクロール 1.5%・ベンフレセート 1.5%粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ヘラオモダカ ヒルムシロ エゾノサヤカグサ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植5日~ルビエ2葉期 ただし、移植後30日 まで	壤土 ~ 埴土	3 kg/10 a	1回	湛水 散布	北海道

ジメタメトリンを含む 農薬の総使用回数	ピラゾレートを 含む農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数	ベンフレセートを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内	2回以内

10. 登録番号 18680 : ウリホス粒剤 10

(ジメタメトリン 0.20%・ピラゾレート 4.0%・プレチラクロール 1.5%・ベンフレセート 1.0%粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稻	一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヘラオモダカ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植後3日~ ルビエ2.5葉期 ただし、移植後30 日まで	3 kg/10 a	1回	湛水散布

ジメタメトリンを含む 農薬の総使用回数	ピラゾレートを 含む農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数	ベンフレセートを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内	2回以内

1 1. 登録番号 18717 : ホクコーユニハーブフロアブル

(プレチラクロール 5.0 % ・ ベンゾフェナップ 20.0 %水和剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稻	一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカ ミスガヤツリ ヘラオモダカ オモダカ	植代時(移植 7 日前まで)	500 mL/10 a	1 回	植代時に原液のまま散布し 混和する
		植代後~移植 7 日前まで			原液湛水散布
		移植直後~ <sup>1</sup> 葉期 但し、移植後 30 日まで			原液湛水散布、水口施用 又は無人航空機による滴下
		移植時			田植同時散布機で施用

プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数	ベンゾフェナップを含む 農薬の総使用回数
2 回以内	2 回以内

1 2. 登録番号 18897 : 石原ワンオール S 1 キロ粒剤

(シメトリン 1.5 % ・ ピラゾキシフェン 18.0 % ・ プレチラクロール 4.5 %粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	適用 土壌	使用量	本剤の 使用 回数	使用方法	適用地帯
移植水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカ ミスガヤツリ ヘラオモダカ(東北) オモダカ(北陸、関 東・東山・東海、 九州) ヒルムシロ(東北、近 畿・中国・四国) アオミドロ・藻類によ る表層はく離	移植時	砂壤土 ~ 埴土	1 kg/10 a	1 回	田植同時 散布機で 施用	全域(北 海道を除 く)の普 通期及び 早期栽培 地帯
		移植直後~ <sup>2</sup> 葉期 但し、移植後 30 日まで				湛水散布	
いぐさ	水田一年生雑草	植付後~ 4 月中旬 (雑草発生前~ スズメノテッポウ 3 葉期まで、 <sup>1.5</sup> 葉期 まで)	埴壤土 ~ 埴土				九州

シメトリンを含む 農薬の総使用回数	ピラゾキシフェンを含む 農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内

1 3. 登録番号 18913 : パデホープ 1 キロ粒剤、  
 登録番号 18914 : SDSパデホープ 1 キロ粒剤  
 (ダイムロン 15.0 %・プレチラクロール 3.0 %粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稻	一年生雑草 マツハイ ホタルイ ミスガヤツリ ハラモダカ(北海道、東北、北陸)	植代後~移植前 7 日 又は 移植直後~ルビエ 1 葉期 但し、移植後 30 日まで	1 kg/10 a	1 回	湛水散布

ダイムロンを含む農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む農薬の総使用回数
3 回以内 (育苗箱散布は 1 回以内、本田では 2 回以内)	2 回以内

1 4. 登録番号 19214 : ホクト粒剤  
 (シハロホップブチル 0.60 %・ジメタメトリン 0.20 %・ピラゾスルフロンエチル 0.070 %・プレチラクロール 1.5 %粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稻	水田一年生雑草 マツハイ ホタルイ ウリカ ミスガヤツリ ハラモダカ(北海道、東北) オモダカ(東北) ヒルムシロ セリ クログワイ(北海道を除く) アオミドロ・藻類による表層はく離	移植後 5 日~ ルビエ 3 葉期 ただし、 移植後 30 日 まで	壤土~埴土	3 kg/10 a	1 回	湛水散布	全域の普通期及び早期栽培地帯

シハロホップブチルを含む農薬の総使用回数	ジメタメトリンを含む農薬の総使用回数	ピラゾスルフロンエチルを含む農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む農薬の総使用回数
3回以内	2回以内	1回	2回以内

15. 登録番号 20846：シンジェンタ・ホクト粒剤

(シハロホップブチル 0.60%・ジメタメトリン 0.20%・ピラゾスルフロンエチル 0.070%・プレチラクロール 1.5%粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稻	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ ヘラオモダカ オモダカ ヒルムシロ セリ クログワイ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植後5日~ ルビエ3葉期 ただし、 移植後30日まで	3 kg/10 a	1回	湛水 散布

シハロホップブチルを含む 農薬の総使用回数	ジメタメトリンを含む 農薬の総使用回数	ピラゾスルフロンエチルを含む 農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数
3回以内	2回以内	1回	2回以内

16. 登録番号 19749：ウリホス1キロ粒剤

(ジメタメトリン 0.60%・ピラゾレート 18.0%・プレチラクロール 3.0%・ベンフレセート 3.0%粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ヘラオモダカ ヒルムシロ エゾノサヤヌカゲサ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植直後~ ルビエ2葉期 ただし、移植 後 30日まで	埴土 ~ 壤土	1 kg/10 a	1回	湛水散布 又は 無人航空機 による散布	北海道

ジメタメトリンを含む 農薬の総使用回数	ピラゾレートを 含む 農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数	ベンフレセートを 含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内	2回以内

17. 登録番号 20292：ウリホスフロアブル

(ジメタメトリン 0.60%・ピラゾレート 18.0%・プレチラクロール 3.0%・ベンフレセート 3.0%水和剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稻	水田一年生雑草 及び マツハイ ホタルイ ウリカ エゾノサヤカグサ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植直後～ ビエ2葉期 ただし、 移植後30日 まで	壤土 ～ 埴土	1 L/10 a	1回	原液湛水 散布 又は 水口施用	北海道

ジメタメトリンを含む 農薬の総使用回数	ピラゾレートを 含む農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数	ベンフレセートを 含む農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内	2回以内

18. 登録番号 20656：ウリホスジャンボ

(ジメタメトリン 1.0%・ピラゾレート 30.0%・プレチラクロール 5.0%・ベンフレセート 5.0%粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稻	水田一年生雑草 及び マツハイ ホタルイ ウリカ ヘラオモダカ ヒルムシロ エゾノサヤカグサ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植3日 ～15日 (ビエ2葉期 まで)	埴土～壤土 (減水深 1.5cm/日 以下)	小包装 (パック)10 個(600g) /10 a	1回	水田に小包装(パック)のまま 投げ入れる	北海道

ジメタメトリンを含む 農薬の総使用回数	ピラゾレートを 含む農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数	ベンフレセートを 含む農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内	2回以内

19. 登録番号 20963 : エリジャンジャンボ

(プレチラクロール 15.0 %粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	プレチラクロールを含む農薬の総使用回数
移植水稻	一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ミスガヤツリ ヘラオモダカ	植代後~移植前7日又は移植直後~ ルビエ1葉期 ただし、移植後 30日まで	小包装(パック) 10個(300g)/10a	1回	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	2回以内

20. 登録番号 21299 : クサトッタ 1 キロ粒剤、

登録番号 22459 : MICスラッシャ 1 キロ粒剤

(ジメタメトリン 0.60 %・ピラゾレート 12.0 %・プレチラクロール 4.5 %・プロモブチド 6.0 %粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカ ミスガヤツリ ヘラオモダカ ヒルムシロ ゼリ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植時	1 kg/10 a	1回	田植同時散布機で施用
		移植直後~ルビエ2葉期 ただし、移植後30日まで			湛水散布
直播水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカ ミスガヤツリ ヒルムシロ	稲 1.5 葉期~ルビエ2葉期 ただし、収穫90日前まで			

ジメタメトリンを含む農薬の総使用回数	ピラゾレートを含む農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む農薬の総使用回数	プロモブチドを含む農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内	2回以内

2 1. 登録番号 21300 : クサトツタ粒剤、

登録番号 22421 : M I Cスラッシュ粒剤

(ジメタメトリン 0.20 % ・ピラゾレート 4.0 % ・プレチラクロール 1.5 % ・プロモブチド 2.0 % 粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稻	一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカ ミスガヤツリ ハラモダカ ヒルムシロ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植時	3 kg/10 a	1 回	田植同時散布機で施用
		移植直後～ヒェ2.5 葉期 ただし、移植後 30 日まで			湛水散布

ジメタメトリンを含む農薬の総使用回数	ピラゾレートを含む農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む農薬の総使用回数	プロモブチドを含む農薬の総使用回数
2 回以内	2 回以内	2 回以内	2 回以内

2 2. 登録番号 21587 : 協友農将軍フロアブル

(ジメタメトリン 0.5 % ・ピリブチカルブ 10.0 % ・プレチラクロール 5.0 % 水和剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稻	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ハラモダカ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植時	500 mL/10 a	1 回	田植同時散布機で施用
		植代後～移植 7 日前又は 移植直後～ヒェ1.5 葉期 但し、移植後 30 日まで			原液湛水散布
		植代後～移植 7 日前又は 移植直後～ヒェ1 葉期 但し、移植後 30 日まで	300 mL/10 a (少量散布)		水口施用
		移植直後～ヒェ1 葉期 但し、移植後 30 日まで			田植同時散布機で施用
		移植時			

ジメタメトリンを含む農薬の総使用回数	ピリブチカルブを含む農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む農薬の総使用回数
2 回以内	2 回以内	2 回以内

23. 登録番号 22138 : エリジャンEW乳剤 (プレチラクロール 38.5 %乳剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	プレチラクロールを含む農薬の総使用回数
			薬量	希釈水量			
移植水稻	一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミスガヤツリ	移植直後~ ルビエ1葉期 ただし、移植 後30日まで	100 mL/10 a	100 mL/10 a (原液)~ 500 mL/10 a	1回	湛水散布、 水口施用又は 無人航空機に よる滴下	2回以内
		移植時		500 mL/10 a		田植同時散布 機で施用	

24. 登録番号 22142 : クサナイト粒剤

(ピラゾキシフェン 6.0 %・プレチラクロール 1.5 %粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ヘラオモダカ ミスガヤツリ ヒルムシロ	移植直後~ ルビエ2葉期 但し、移植後 30日まで	砂壤土 ~ 埴土	3~4 kg	1回	湛水散布	全域(北海道 を除く)の普 通期及び早 期栽培地帯

ピラゾキシフェンを含む 農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内

25. 登録番号 22694 : マキシ-MX 1キログラム粒剤

(プレチラクロール 4.2 %・メソトリオン 0.60 %粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	プレチラクロールを含む農薬の総使用回数	メソトリオンを含む農薬の総使用回数
移植水稻	一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ミスガヤツリ ヘラオモダカ ヒルムシロ	移植直後~ ルビエ1.5葉期 ただし、 移植後30日まで	1 kg/10 a	1回	湛水散布	2回以内	2回以内
		移植時			田植同時散 布機で施用		

26. 登録番号 23326 : 葉がくれ1キロ粒剤

(シクロスルフアムロン 0.50%・プレチラクロール 6.0%粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稻	水田一年生雑草及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ ヘラオモダカ ヒルムシロ セリ オモダカ クログワイ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植直後～ルビエ2葉期 但し、移植後30日まで	1 kg/10 a	1回	湛水散布

シクロスルフアムロンを含む 農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内

27. 登録番号 23327 : かねつぐ1キロ粒剤

(シクロスルフアムロン 0.40%・プレチラクロール 4.0%粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ ヘラオモダカ ヒルムシロ クログワイ オモダカ アオミドロ・藻類による 表層はく離	移植時	1 kg/10 a	1回	田植同時 散布機で施用
		移植直後～ルビエ1.5葉期 但し、移植後30日まで			湛水散布

シクロスルフアムロンを含む 農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内

28. 登録番号 23439 : ロータスMX 1 キロ粒剤、  
 登録番号 23452 : アピログロウMX 1 キロ粒剤  
 (ピラゾスルフロンエチル 0.30 %・ピリフタリド 1.5 %・プレチラクロール  
 4.5 %・メソトリオン 0.90 %粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稻	一年生雑草 及び マツバイ ウリカワ ホタルイ ミズガヤツリ ヘラモダカ クログワイ オモダカ ヒルムシロ セリ シズイ アオミドロ・藻類による 表層はく離	移植直後~ビエ3葉期 ただし、移植後30日まで	1 kg/10 a	1回	湛水散布
		移植時			田植同時散布機で施用
直播水稻	一年生雑草 及び マツバイ ウリカワ ホタルイ ミズガヤツリ ヒルムシロ セリ	稲1葉期~ビエ3葉期 ただし、収穫90日前まで	1 kg/10 a	1回	湛水散布

ピラゾスルフロンエチルを含む 農薬の総使用回数	ピリフタリドを含む 農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数	メソトリオンを含む 農薬の総使用回数
1回	2回以内	2回以内	2回以内

29. 登録番号 23440 : ロータスMXジャンボ、  
 登録番号 23453 : アピログロウMXジャンボ  
 (ピラゾスルフロンエチル 0.75 %・ピリフタリド 3.75 %・プレチラクロール  
 11.25 %・メソトリオン 2.25 %粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稻	一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ ヘラオモダカ クログワイ オモダカ ヒルムシロ セリ シズイ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植後 3 日~ビ <sup>2</sup> エ 3 葉期 ただし、移植後 30 日まで	小包装(パック) 10 個(400 g)/10 a	1 回	水田に小包装 (パック)のまま 投げ入れる。
直播水稻	一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ ヒルムシロ セリ	稲 1 葉期~ビ <sup>2</sup> エ 3 葉期 ただし、収穫 90 日前まで			

ピラゾスルフロンエチルを含む 農薬の総使用回数	ピリフタリドを含む 農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数	メソトリオンを含む 農薬の総使用回数
1 回	2 回以内	2 回以内	2 回以内

30. 登録番号 23588 : かねつぐーラジカルジャンボ

(シクロスルフアムロン 1.67%・プレチラクロール 20.0%粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ ヘラオモダカ ヒルムシロ セリ オモダカ クログワイ	移植直後~ルビエ2葉期 但し、移植後30日まで	小包装(パック) 10個(300g) /10a	1回	水田に小包装 (パック) のまま投げ 入れる。

シクロスルフアムロンを 含む農薬の総使用回数	プレチラクロールを 含む農薬の総使用回数
2回以内	2回以内

3 1. 登録番号 23613 : OATシェリフ 1 キロ粒剤

(イマゾスルフロン 0.90 % ・ シハロホップブチル 1.8 % ・ ジメタメトリン 0.60 % ・ プレチラクロール 4.5 % 粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	適用 土壌	使用量	本剤 の 使用 回数	使用 方法	適用 地帯
移植水稻	水田一年生雑草 及び マツハイ ホタルイ ウリカ ミスガヤツリ ハラホトカ オモダカ(北海道、関 東・東山・東海、近 畿・中国・四国) ヒルムシロ セリ クログライ(北海道、北 陸を除く) エゾノサヤヌカグサ(北海 道) アオミドロ・藻類による 表層はく離	移植後 5 日～ ルビエ 3 葉期 ただし、移植後 30 日まで	砂壤土 ～ 埴土	1 kg/10 a	1 回	湛水 散布	全域の普 通期及び 早期栽培 地帯

イマゾスルフロンを含む 農薬の総使用回数	シハロホップブチルを含む 農薬の総使用回数	ジメタメトリンを含む 農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数
2 回以内	3 回以内	2 回以内	2 回以内

3 2. 登録番号 24361：アピログロウMXエアー粒剤

(ピラゾスルフロンエチル 0.75 %・ピリフタリド 3.75 %・プレチラクロール 11.25 %・メソトリオン 2.25 %粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稻	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカ ミスガヤツリ ハラモダカ クグワイ オモダカ ヒルムシロ セリ シスイ アオミドロ・藻類による 表層はく離	移植後 3 日～ヒエ 3 葉期 ただし、移植後 30 日まで	400 g/10 a	1 回	湛水散布、水口施用又は無人航空機による散布
直播水稻	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカ ミスガヤツリ ヒルムシロ セリ	稲 1 葉期～ヒエ 3 葉期 ただし、収穫 90 日前まで			

ピラゾスルフロンエチルを含む 農薬の総使用回数	ピリフタリドを含む 農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数	メソトリオンを含む 農薬の総使用回数
1 回	2 回以内	2 回以内	2 回以内

3 3. 登録番号 24651：メガオスMX 1 キロ粒剤

(ピリフタリド 1.2 %・プレチラクロール 4.6 %・ベンスルフロンメチル 0.51 %・メソトリオン 0.90 %粒剤)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稻	一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカ ミズガヤツリ クログライ オモダカ ヒルムシロ セリ アミドロ・藻類による表層はく離	移植時	1 kg/10 a	1 回	田植同時散布機で施用
		移植直後～ヒエ 3 葉期 ただし、移植後 30 日まで			湛水散布
直播水稻	一年生雑草 及び ホタルイ ミズガヤツリ セリ	稲 1 葉期～ヒエ 2.5 葉期 ただし、収穫 90 日前まで			

ピリフタリドを含む農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む農薬の総使用回数	ベンスルフロンメチルを含む農薬の総使用回数	メソトリオンを含む農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内	2回以内

別添2：暴露量の推計（プレチラクロールを有効成分として含む製剤）

目次	頁
1. 登録番号15986：石原ワンオール粒剤 （ピラゾキシフェン6.0%・プレチラクロール1.5%粒剤）	..... 3
2. 登録番号16664：クサホープD粒剤 （ジメタメトリン0.20%・ピラゾレート6.0%・プレチラクロール1.5%粒剤）	..... 4
3. 登録番号16669：バレージ粒剤、 登録番号21616：協友バレージ粒剤、 登録番号21723：S Tバレージ粒剤 （ジメタメトリン0.10%・プレチラクロール2.0%粒剤）	..... 5
4. 登録番号18163：エリジャン乳剤 （プレチラクロール12.0%乳剤）	..... 6
5. 登録番号18225：スパークスター粒剤 （エスプロカルブ5.0%・ジメタメトリン0.20%・ピラゾスルフロンエチ0.070%・ プレチラクロール1.5%粒剤）	..... 7
6. 登録番号18541：シング乳剤、 登録番号22680：ホクサンシング乳剤 （ピリプチカルブ12.0%・プレチラクロール8.0%乳剤）	..... 8
7. 登録番号18567：ソルネット1キロ粒剤 （プレチラクロール4.0%粒剤）	..... 9
8. 登録番号18677：ウリホス粒剤15、 登録番号18678：ウリホス粒剤15 （ジメタメトリン0.20%・ピラゾレート8.0%・プレチラクロール1.5%・ ベンフレセート1.5%粒剤）	..... 10
9. 登録番号18680：ウリホス粒剤10 （ジメタメトリン0.20%・ピラゾレート4.0%・プレチラクロール1.5%・ ベンフレセート1.0%粒剤）	..... 11
10. 登録番号18717：ホクコーユニハーブフロアブル （プレチラクロール5.0%・ベンゾフェナップ20.0%水和剤）	..... 12
11. 登録番号18897：石原ワンオールS1キロ粒剤 （シメトリン1.5%・ピラゾキシフェン18.0%・プレチラクロール4.5%粒剤）	..... 13
12. 登録番号18913：パデホープ1キロ粒剤、 登録番号18914：SDSパデホープ1キロ粒剤 （ダイムロン15.0%・プレチラクロール3.0%粒剤）	..... 14
13. 登録番号19214：ホクト粒剤、 登録番号20846：シンジェンタ・ホクト粒剤 （シハロホップブチル0.60%・ジメタメトリン0.20%・ ピラゾスルフロンエチル0.070%・プレチラクロール1.5%粒剤）	..... 15
14. 登録番号19749：ウリホス1キロ粒剤 （ジメタメトリン0.60%・ピラゾレート18.0%・プレチラクロール3.0%・ ベンフレセート3.0%粒剤）	..... 16

15. 登録番号20292：ウリホスフロアブル (ジメタメトリン0.60%・ピラゾレート18.0%・プレチラクロール3.0%・ ベンフレセート3.0%水和剤)	.....	17
16. 登録番号20656：ウリホスジャンボ (ジメタメトリン1.0%・ピラゾレート30.0%・プレチラクロール5.0%・ ベンフレセート5.0%粒剤)	.....	18
17. 登録番号20963：エリジャンジャンボ (プレチラクロール15.0%粒剤)	.....	19
18. 登録番号21299：クサトッタ1キロ粒剤、 登録番号22459：M I Cスラッシャ1キロ粒剤 (ジメタメトリン0.60%・ピラゾレート12.0%・プレチラクロール4.5%・ ブロモブチド6.0%粒剤)	.....	20
19. 登録番号21300：クサトッタ粒剤、 登録番号22421：M I Cスラッシャ粒剤 (ジメタメトリン0.20%・ピラゾレート4.0%・プレチラクロール1.5%・ ブロモブチド2.0%粒剤)	.....	21
20. 登録番号21587：協友農将軍フロアブル (ジメタメトリン0.5%・ピリブチカルブ10.0%・プレチラクロール5.0%水和剤)	.....	22
21. 登録番号22138：エリジャンE W乳剤 (プレチラクロール38.5%乳剤)	.....	23
22. 登録番号22142：クサナイト粒剤 (ピラゾキシフェン6.0%・プレチラクロール1.5%粒剤)	.....	24
23. 登録番号22694：マキシ- MX 1キロ粒剤 (プレチラクロール4.2%・メソトリオン0.60%粒剤)	.....	25
24. 登録番号23326：葉がくれ1キロ粒剤 (シクロスルファミロン0.50%・プレチラクロール6.0%粒剤)	.....	26
25. 登録番号23327：かねつぐ1キロ粒剤 (シクロスルファミロン0.40%・プレチラクロール4.0%粒剤)	.....	27
26. 登録番号23439：ロータスMX 1キロ粒剤、 登録番号23452：アピログロウMX 1キロ粒剤 (ピラゾスルフロリエチル0.30%・ピリフタリド1.5%・プレチラクロール4.5%・ メソトリオン0.90%粒剤)	.....	28
27. 登録番号23440：ロータスMXジャンボ、 登録番号23453：アピログロウMXジャンボ (ピラゾスルフロリエチル0.75%・ピリフタリド3.75%・ プレチラクロール11.25%・メソトリオン2.25%粒剤)	.....	29
28. 登録番号23588：かねつぐ-ラジカルジャンボ (シクロスルファミロン1.67%・プレチラクロール20.0%粒剤)	.....	30
29. 登録番号23613：O A Tシェリフ1キロ粒剤 (イマゾスルフロロン0.90%・シハロホップブチル1.8%・ジメタメトリン0.60%・ プレチラクロール4.5%粒剤)	.....	31
30. 登録番号24361：アピログロウMXエアー粒剤 (ピラゾスルフロリエチル0.75%・ピリフタリド3.75%・ プレチラクロール11.25%・メソトリオン2.25%粒剤)	.....	32
31. 登録番号24651：メガオスMX 1キロ粒剤 (ピリフタリド1.2%・プレチラクロール4.6%・ベンスルフロロンメチル0.51%・ メソトリオン0.90%粒剤)	.....	33

\*：本資料は、製剤のハザード区分に応じた防護装備も考慮して作成した。

1. 登録番号15986：石原ワンオール粒剤（ピラゾキシフェン6.0%・プレチラクロール1.5%粒剤）

①製剤情報	登録番号	15986
	種類・名称	ピラゾキシフェン・プレチラクロール粒剤(石原ワンオール粒剤) (除草剤)
②評価対象有効成分	プレチラクロール	
③-1AOEL	0.085 (mg/kg体重/日)	
③-2AAOEL	設定不要	
④有効成分濃度・含有率	1.5 %	
⑤製剤の形態(製剤/散布液)	製剤:固体/散布時:固体	
⑥調製時の予測式	固形剤 (粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時		反復 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)	急性 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)	%AOEL 1)	%AAOEL 2)		
					マスク	手袋	防護服	マスク						手袋
1	移植水稻	4kg/10a/移植直後～ヒエ2葉期ただし、移植後30日まで/湛水散布/2回	1	固形剤 (粒剤) _水稲 (手散布)						6.2	40.2	7.3	-	
2	いぐさ	3kg/10a/植付後～スズメタネコ 3葉期またはヒエ1.5葉期まで/湛水土壌処理/2回	1	固形剤 (粒剤) _水稲 (手散布)						2	4.5	2.4	-	

1) : AOEL占有率=反復暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)  $\div$ 1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$ AOEL (mg/kg体重/日)  $\times$ 100

2) : AAOEL占有率=急性暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)  $\div$ 1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$ AAOEL (mg/kg体重)  $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1kgを用いている。

2. 登録番号16664 : クサホープD粒剤 (ジメタメトリン0.20%・ピラゾレート6.0%・プレチラクロール1.5%粒剤)

①製剤情報	登録番号	16664
	種類・名称	ジメタメトリン・ピラゾレート・プレチラクロール粒剤 (クサホープD粒剤) (除草剤)
②評価対象有効成分	プレチラクロール	
③-1AOEL	0.085 (mg/kg体重/日)	
③-2AAOEL	設定不要	
④有効成分濃度・含有率	1.5 %	
⑤製剤の形態(製剤/散布液)	製剤:固体/散布時:固体	
⑥調製時の予測式	固形剤 (粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	10
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希 積 倍 数	散布時の予測式	防護装備あり								備考		
					調製時		散布時		反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)			
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)				( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)	
1	移植水稻	3kg/10a/移植後3日～ノビエ2葉期ただし、移植後30日まで/ 湛水散布/2回	1	固形剤 (粒剤) _水 稲 (手散布)							4.6	30.2	5.4	-	

1) : AOEL占有率 = 反復暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AOEL (mg/kg体重/日)  $\times$  100

2) : AAOEL占有率 = 急性暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AAOEL (mg/kg体重)  $\times$  100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1kgを用いている。

3. 登録番号16669：パレージ粒剤、登録番号21616：協友パレージ粒剤、登録番号21723：S Tパレージ粒剤（ジメタメトリン0.10%・プレチラクロール2.0%粒剤）

①製剤情報	登録番号	21723
	種類・名称	ジメタメトリン・プレチラクロール粒剤(STパレージ粒剤) (除草剤)
②評価対象有効成分	プレチラクロール	
③-1AOEL	0.085 (mg/kg体重/日)	
③-2AAOEL	設定不要	
④有効成分濃度・含有率	2 %	
⑤製剤の形態(製剤/散布液)	製剤:固体/散布時:固体	
⑥調製時の予測式	固形剤 (粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

④経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時		反復 ( $\mu\text{gai/kg}$ 体重/日)	急性 ( $\mu\text{gai/kg}$ 体重)	%AOEL 1)	%AAOEL 2)		
					マスク	手袋	防護服	マスク						手袋
1	移植水稻	3kg/10a/移植後3日~10日 (ヒエの1.5葉期まで) / 湛水散布 / 2回	1	固形剤 (粒剤) _水稲 (手散布)						6.2	40.2	7.3	-	
2	移植水稻	3kg/10a/移植後3日~7日 (ヒエの1.5葉期まで) / 湛水散布 / 2回	1	固形剤 (粒剤) _水稲 (手散布)						6.2	40.2	7.3	-	

1) : AOEL占有率 = 反復暴露量 ( $\mu\text{gai/kg}$ 体重/日)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g/mg}$ )  $\div$  AOEL (mg/kg体重/日)  $\times$  100

2) : AAOEL占有率 = 急性暴露量 ( $\mu\text{gai/kg}$ 体重)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g/mg}$ )  $\div$  AAOEL (mg/kg体重)  $\times$  100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1kgを用いている。

4. 登録番号18163：エリジャン乳剤（プレチラクロール12.0%乳剤）

①製剤情報	登録番号	18163
	種類・名称	プレチラクロール乳剤(エリジャン乳剤) (除草剤)
②評価対象有効成分	プレチラクロール	
③-1AOEL	0.085 (mg/kg体重/日)	
③-2AAOEL	設定不要	
④有効成分濃度・含有率	12 %	
⑤製剤の形態(製剤/散布液)	製剤:液体/散布時:液体	
⑥調製時の予測式	乳剤等	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

④経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	25
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考		
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL	%AAOEL
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{gai/kg}$ 体重/日)		( $\mu\text{gai/kg}$ 体重)	1)
1	移植水稻	300mL,0.3L/10a/植代後～移植7日前まで/原液湛水散布/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。						調製時:保護眼鏡、散布時:保護眼鏡、農薬用マスク、不浸透性防除衣		
2	移植水稻	300mL,0.3L/10a/移植直後～1葉期ただし、移植後30日まで/原液湛水散布/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。						調製時:保護眼鏡、散布時:保護眼鏡、農薬用マスク、不浸透性防除衣		

1) : AOEL占有率=反復暴露量 ( $\mu\text{gai/kg}$ 体重/日)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g/mg}$ )  $\div$  AOEL (mg/kg体重/日)  $\times$  100

2) : AAOEL占有率=急性暴露量 ( $\mu\text{gai/kg}$ 体重)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g/mg}$ )  $\div$  AAOEL (mg/kg体重)  $\times$  100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1kgを用いている。

5. 登録番号18225：スパークスター粒剤（エスプロカルブ5.0%・ジメタメトリン0.20%・ピラゾスルフロンエチ0.070%・プレチラクロール1.5%粒剤）

①製剤情報	登録番号	18225
	種類・名称	エスプロカルブ・ジメタメトリン・ピラゾスルフロンエチル・プレチラクロール粒剤(スパークスター粒剤) (除草剤)
②評価対象有効成分		プレチラクロール
③-1AOEL		0.085 (mg/kg体重/日)
③-2AAOEL		設定不要
④有効成分濃度・含有率		1.5 %
⑤製剤の形態(製剤/散布液)		製剤:固体/散布時:固体
⑥調製時の予測式		固形剤 (粉剤、微粒剤、粒剤等)

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考		
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL		%AAOEL	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)	( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)	1)		2)	
1	移植水稻	3kg/10a/移植後5日～1/2葉期ただし、移植後30日まで/湛水散布/2回	1	固形剤 (粒剤) _水稻 (手散布)		不浸透性手袋					1.3	8.5	1.5	-	

1) : AOEL占有率=反復暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AOEL (mg/kg体重/日)  $\times$  100

2) : AAOEL占有率=急性暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AAOEL (mg/kg体重)  $\times$  100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1kgを用いている。

6. 登録番号18541：シング乳剤、登録番号22680：ホクサンシング乳剤（ピリプチカルブ12.0%・プレチラクロール8.0%乳剤）

①製剤情報	登録番号	18541
	種類・名称	ピリプチカルブ・プレチラクロール乳剤(シング乳剤) (除草剤)
②評価対象有効成分	プレチラクロール	
③-1AOEL	0.085 (mg/kg体重/日)	
③-2AAOEL	設定不要	
④有効成分濃度・含有率	8 %	
⑤製剤の形態(製剤/散布液)	製剤:液体/散布時:液体	
⑥調製時の予測式	乳剤等	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

④経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	25
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考		
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL	%AAOEL
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)		( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)	1)
1	移植水稻	500mL,0.5L/10a/植代後～移植7日前まで/原液湛水散布/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。						調製時:保護面、保護眼鏡、ゴム長靴、不浸透性防除衣、散布時:保護面、保護眼鏡、農業用マスク、ゴム長靴、不浸透性防除衣		
2	移植水稻	500mL,0.5L/10a/植代時(移植7日前まで)/植代時に原液のまま散布し混和する。/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。						同上		
3	移植水稻	300mL,0.3L/10a/植代時(移植7日前まで)/植代時に原液のまま散布し混和する。/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。						同上		
4	移植水稻	300mL,0.3L/10a/植代後～移植7日前まで/原液湛水散布/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。						同上		
5	移植水稻	300mL,0.3L/10a/移植直後～ノビエ1葉期ただし、移植後30日まで/原液湛水散布/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。						同上		

1): AOEL占有率=反復暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AOEL (mg/kg体重/日)  $\times$  100

2): AAOEL占有率=急性暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AAOEL (mg/kg体重)  $\times$  100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1kgを用いている。

7. 登録番号18567：ソルネット1キロ粒剤（プレチラクロール4.0%粒剤）

①製剤情報	登録番号	18567
	種類・名称	プレチラクロール粒剤(ソルネット1キロ粒剤) (除草剤)
②評価対象有効成分	プレチラクロール	
③-1AOEL	0.085 (mg/kg体重/日)	
③-2AAOEL	設定不要	
④有効成分濃度・含有率	4 %	
⑤製剤の形態(製剤/散布液)	製剤:固体/散布時:固体	
⑥調製時の予測式	固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

④経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考		
					調製時		散布時		反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)			
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)				( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)	
1	移植水稻	1kg/10a/植代後～移植前7日/湛水散布/2回	1	固形剤（粒剤）_水稻（手散布）							4.1	26.8	4.8	-	
2	移植水稻	1kg/10a/移植直後～ヒレ1葉期ただし、移植後30日まで/湛水散布/2回	1	固形剤（粒剤）_水稻（手散布）							4.1	26.8	4.8	-	
3	移植水稻	1kg/10a/移植時/田植同時散布機で施用/一回	1	-	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。										

1) : AOEL占有率=反復暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AOEL (mg/kg体重/日)  $\times$  100

2) : AAOEL占有率=急性暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AAOEL (mg/kg体重)  $\times$  100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1kgを用いている。

8. 登録番号18677：ウリホス粒剤15、登録番号18678：ウリホス粒剤15（ジメタメトリン0.20%・ピラゾレート8.0%・プレチラクロール1.5%・ペンフレセート1.5%粒剤）

①製剤情報	登録番号	18677
	種類・名称	ジメタメトリン・ピラゾレート・プレチラクロール・ペンフレセート粒剤(ウリホス粒剤15) (除草剤)
②評価対象有効成分	プレチラクロール	
③-1AOEL	0.085 (mg/kg体重/日)	
③-2AAOEL	設定不要	
④有効成分濃度・含有率	1.5 %	
⑤製剤の形態(製剤/散布液)	製剤:固体/散布時:固体	
⑥調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考		
					調製時		散布時		反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)			
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)				( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)	
1	移植水稻	3kg/10a/移植後5日～ <sup>1)</sup> 2葉期ただし、移植後30日まで/湛水散布/2回	1	固形剤(粒剤) _水稻(手散布)							4.6	30.2	5.4	-	

1) : AOEL占有率 = 反復暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AOEL (mg/kg体重/日)  $\times$  100

2) : AAOEL占有率 = 急性暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AAOEL (mg/kg体重)  $\times$  100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1kgを用いている。

9. 登録番号18680：ウリホス粒剤10（ジメタメトリン0.20%・ピラゾレート4.0%・プレチラクロール1.5%・ベンフレセート1.0%粒剤）

①製剤情報	登録番号	18680
	種類・名称	ジメタメトリン・ピラゾレート・プレチラクロール・ベンフレセート粒剤(ウリホス粒剤10) (除草剤)
②評価対象有効成分	プレチラクロール	
③-1AOEL	0.085 (mg/kg体重/日)	
③-2AAOEL	設定不要	
④有効成分濃度・含有率	1.5 %	
⑤製剤の形態(製剤/散布液)	製剤:固体/散布時:固体	
⑥調製時の予測式	固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

④経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考		
					調製時		散布時		反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)			
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)				( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)	
1	移植水稻	3kg/10a/移植後3日～11 <sup>上</sup> ±2.5葉期ただし、移植後30日まで/ 湛水散布/2回	1	固形剤（粒剤）_水 稲（手散布）							4.6	30.2	5.4	-	

1) : AOEL占有率=反復暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AOEL (mg/kg体重/日)  $\times$  100

2) : AAOEL占有率=急性暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AAOEL (mg/kg体重)  $\times$  100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1kgを用いている。

10. 登録番号18717：ホクコユニハーブフロアブル（プレチラクロール5.0%・ベンゾフェナップ20.0%水和剤）

①製剤情報	登録番号	18717
	種類・名称	プレチラクロール・ベンゾフェナップ水和剤(ホクコユニハーブフロアブル) (除草剤)
②評価対象有効成分	プレチラクロール	
③-1AOEL	0.085 (mg/kg体重/日)	
③-2AAOEL	設定不要	
④有効成分濃度・含有率	5 %	
⑤製剤の形態(製剤/散布液)	製剤:液体/散布時:液体	
⑥調製時の予測式	フロアブル剤等	

【補助1】 農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】 面積について
デフォルト値を使用

④経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考		
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL	%AAOEL
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)		( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)	1)
1	移植水稻	500mL,0.5L/10a/植代時(移植7日前まで)/植代時に原液のまま散布し混和する/一回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。						散布時: 農薬用マスク、不浸透性防除衣		
2	移植水稻	500mL,0.5L/10a/植代後～移植7日前まで/原液湛水散布/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。						散布時: 農薬用マスク、不浸透性防除衣		
3	移植水稻	500mL,0.5L/10a/移植直後～バリエ1葉期但し、移植後30日まで/原液湛水散布又は無人航空機による滴下/2回	1	—	部会決定のとおり、施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。						散布時: 農薬用マスク、不浸透性防除衣		
4	移植水稻	500mL,0.5L/10a/移植直後～バリエ1葉期但し、移植後30日まで/水口施用/2回	1	—	部会決定のとおり、施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。						調製時: 不浸透性手袋、散布時: 農薬用マスク、不浸透性防除衣		
5	移植水稻	500mL,0.5L/10a/移植時/田植同時散布機で施用/一回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。						散布時: 農薬用マスク、不浸透性防除衣		

1) : AOEL占有率=反復暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AOEL (mg/kg体重/日)  $\times$  100

2) : AAOEL占有率=急性暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AAOEL (mg/kg体重)  $\times$  100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1kgを用いている。

1.1. 登録番号18897：石原ワンオールS 1キログラム剤（シメトリン1.5%・ピラゾキシフェン18.0%・プレチラクロール4.5%剤剤）

①製剤情報	登録番号	18897
	種類・名称	シメトリン・ピラゾキシフェン・プレチラクロール剤剤 (石原ワンオールS 1キログラム剤) (除草剤)
②評価対象有効成分	プレチラクロール	
③-1AOEL	0.085 (mg/kg体重/日)	
③-2AAOEL	設定不要	
④有効成分濃度・含有率	4.5 %	
⑤製剤の形態(製剤/散布液)	製剤:固体/散布時:固体	
⑥調製時の予測式	固形剤 (粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

④経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)	( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)			
1	移植水稻	1kg/10a/移植時/田植同時散布機で施用/一回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									
2	移植水稻	1kg/10a/移植直後～ $\text{ヒ}^{\circ}$ 2葉期ただし、移植後30日まで/湛水散布/2回	1	固形剤 (粒剤) _水 稲 (手散布)						4.6	30.2	5.4	-	
3	いぐさ	1kg/10a/植付後～4月中旬(雑草発生前～ $\text{ス}^{\circ}$ メソ $\text{ホ}^{\circ}$ が3葉期まで、 $\text{ヒ}^{\circ}$ 1.5葉期まで)/湛水散布/2回	1	固形剤 (粒剤) _水 稲 (手散布)						2	4.5	2.4	-	

1) : AOEL占有率=反復暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AOEL (mg/kg体重/日)  $\times$  100

2) : AAOEL占有率=急性暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AAOEL (mg/kg体重)  $\times$  100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1kgを用いている。

1 2. 登録番号18913：パデホープ1キロ粒剤、登録番号18914：SDSパデホープ1キロ粒剤（ダイムロン15.0%・プレチラクロール3.0%粒剤）

①製剤情報	登録番号	18913
	種類・名称	ダイムロン・プレチラクロール粒剤(パデホープ1キロ粒剤) (除草剤)
②評価対象有効成分		プレチラクロール
③-1AOEL		0.085 (mg/kg体重/日)
③-2AAOEL		設定不要
④有効成分濃度・含有率		3 %
⑤製剤の形態(製剤/散布液)		製剤:固体/散布時:固体
⑥調製時の予測式		固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

④経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時		反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)		
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)				( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)
1	移植水稻	1kg/10a/植代後~移植前7日又は移植直後~ <sup>1</sup> 葉期但し、 移植後30日まで/湛水散布又は無人航空機による散布/2回	1	固形剤(粒剤)_水 稲(手散布)		不浸透性 手袋	不浸透性 防除衣	マスク1	不浸透性 手袋	0.3	2.1	0.4	-	

1) : AOEL占有率 = 反復暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AOEL (mg/kg体重/日)  $\times$  100

2) : AAOEL占有率 = 急性暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AAOEL (mg/kg体重)  $\times$  100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1kgを用いている。

1.3. 登録番号19214：ホクト粒剤、登録番号20846：シンジェンタ・ホクト粒剤（シハロホップブチル0.60%・ジメタメトリン0.20%・ピラゾスルフロンエチル0.070%・プレチラクロール1.5%粒剤）

①製剤情報	登録番号	19214
	種類・名称	シハロホップブチル・ジメタメトリン・ピラゾスルフロンエチル・プレチラクロール粒剤(ホクト粒剤) (除草剤)
②評価対象有効成分		プレチラクロール
③-1AOEL		0.085 (mg/kg体重/日)
③-2AAOEL		設定不要
④有効成分濃度・含有率		1.5 %
⑤製剤の形態(製剤/散布液)		製剤:固体/散布時:固体
⑥調製時の予測式		固形剤 (粉剤、微粒剤、粒剤等)

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時		反復 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)	急性 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)	%AOEL (1)	%AAOEL (2)		
					マスク	手袋	防護服	マスク						手袋
1	移植水稻	3kg/10a/移植後5日～ノビエ3葉期ただし、移植後30日まで/湛水散布/2回	1	固形剤 (粒剤) _水稻 (手散布)						4.6	30.2	5.4	-	

1) : AOEL占有率=反復暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AOEL ( $\text{mg}/\text{kg}$ 体重/日)  $\times$  100

2) : AAOEL占有率=急性暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AAOEL ( $\text{mg}/\text{kg}$ 体重)  $\times$  100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1kgを用いている。

1.4. 登録番号19749：ウリホス1キロ粒剤（ジメタメトリン0.60%・ピラゾレート18.0%・プレチラクロール3.0%・ベンフレセート3.0%粒剤）

①製剤情報	登録番号	19749
	種類・名称	ジメタメトリン・ピラゾレート・プレチラクロール・ベンフレセート粒剤(ウリホス1キロ粒剤) (除草剤)
②評価対象有効成分	プレチラクロール	
③-1AOEL	0.085 (mg/kg体重/日)	
③-2AAOEL	設定不要	
④有効成分濃度・含有率	3 %	
⑤製剤の形態(製剤/散布液)	製剤:固体/散布時:固体	
⑥調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

④経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時		反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)		
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)				( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)
1	移植水稻	1kg/10a/移植直後～ピエ2葉期ただし、移植後30日まで/湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布/2回	1	固形剤(粒剤) _水稻(手散布)		不浸透性手袋	不浸透性防除衣	マスク1	不浸透性手袋	0.3	2.1	0.4	-	

1) : AOEL占有率 = 反復暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AOEL (mg/kg体重/日)  $\times$  100

2) : AAOEL占有率 = 急性暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AAOEL (mg/kg体重)  $\times$  100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1kgを用いている。

15. 登録番号20292：ウリホスフロアブル（ジメタメトリン0.60%・ピラゾレート18.0%・プレチラクロール3.0%・ベンフレセート3.0%水和剤）

①製剤情報	登録番号	20292
	種類・名称	ジメタメトリン・ピラゾレート・プレチラクロール・ベンフレセート水和剤(ウリホスフロアブル) (除草剤)
②評価対象有効成分	プレチラクロール	
③-1AOEL	0.085 (mg/kg体重/日)	
③-2AAOEL	設定不要	
④有効成分濃度・含有率	3 %	
⑤製剤の形態(製剤/散布液)	製剤:液体/散布時:液体	
⑥調製時の予測式	乳剤等	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

④経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	25
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考		
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL 1)	%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)			
1	移植水稻	1000mL,1L/10a/移植直後～収穫まで2葉期ただし、移植後30日まで/原液湛水散布/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								
2	移植水稻	1000mL,1L/10a/移植直後～収穫まで2葉期ただし、移植後30日まで/水口施用/2回	1	—	部会決定のとおり、施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								

1) : AOEL占有率=反復暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AOEL (mg/kg体重/日)  $\times$  100

2) : AAOEL占有率=急性暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AAOEL (mg/kg体重)  $\times$  100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1kgを用いている。

16. 登録番号20656：ウリホスジャンボ（ジメタメトリン1.0%・ピラゾレート30.0%・プレチラクロール5.0%・ベンフレセート5.0%粒剤）

①製剤情報	登録番号	20656
	種類・名称	ジメタメトリン・ピラゾレート・プレチラクロール・ベンフレセート粒剤(ウリホスジャンボ) (除草剤)
②評価対象有効成分	プレチラクロール	
③-1AOEL	0.085 (mg/kg体重/日)	
③-2AAOEL	設定不要	
④有効成分濃度・含有率	5 %	
⑤製剤の形態(製剤/散布液)	製剤:固体/散布時:固体	
⑥調製時の予測式	固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考		
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL 1)	%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)			
1	移植水稻	0.6kg/10a/移植後3日～15日（ノビエ2葉期まで）/水田に小包装（パック）のまま投げ入れる/2回	1	—	本剤は水溶性パック入り製剤に該当し、通常の使用方法では使用者への暴露のおそれがない。								

1) : AOEL占有率 = 反復暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AOEL (mg/kg体重/日)  $\times$  100

2) : AAOEL占有率 = 急性暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AAOEL (mg/kg体重)  $\times$  100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1kgを用いている。

17. 登録番号20963：エリジャンジャンボ（プレチラクロール15.0%粒剤）

①製剤情報	登録番号	20963
	種類・名称	プレチラクロール粒剤(エリジャンジャンボ) (除草剤)
②評価対象有効成分		プレチラクロール
③-1AOEL		0.085 (mg/kg体重/日)
③-2AAOEL		設定不要
④有効成分濃度・含有率		15 %
⑤製剤の形態(製剤/散布液)		製剤:固体/散布時:固体
⑥調製時の予測式		固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考		
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL 1)	%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)			
1	移植水稲	0.3kg/10a/植代後～移植前7日又は移植直後～ノビエ1葉期ただし、移植後30日まで/水田に小包装（バック）のまま投げ入れる。/2回	1	—	本剤は水溶性バック入り製剤に該当し、通常の使用方法では使用者への暴露のおそれがない。								

1) : AOEL占有率=反復暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AOEL (mg/kg体重/日)  $\times$  100

2) : AAOEL占有率=急性暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AAOEL (mg/kg体重)  $\times$  100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1kgを用いている。

18. 登録番号21299：クサトツタ1キロ粒剤、登録番号22459：M I Cスラッシャ1キロ粒剤（ジメタメトリン0.60%・ピラゾレート12.0%・プレチラクロール4.5%・プロモプチド6.0%粒剤）

①製剤情報	登録番号	22459
	種類・名称	ジメタメトリン・ピラゾレート・プレチラクロール・プロモプチド粒剤(M I Cスラッシャ1キロ粒剤) (除草剤)
②評価対象有効成分		プレチラクロール
③-1AOEL		0.085 (mg/kg体重/日)
③-2AAOEL		設定不要
④有効成分濃度・含有率		4.5 %
⑤製剤の形態(製剤/散布液)		製剤:固体/散布時:固体
⑥調製時の予測式		固形剤 (粉剤、微粒剤、粒剤等)

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

④経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時		反復 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)	急性 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)	%AOEL (1)	%AAOEL (2)		
					マスク	手袋	防護服	マスク						手袋
1	移植水稻	1kg/10a/移植時/田植同時散布機で施用/一回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									
2	移植水稻	1kg/10a/移植直後〜ヒエ2葉期ただし、移植後30日まで/湛水散布/2回	1	固形剤 (粒剤) _水稻 (手散布)						4.6	30.2	5.4	-	
3	直播水稻	1kg/10a/稲1.5葉期〜ヒエ2葉期ただし、収穫90日前まで/湛水散布/2回	1	固形剤 (粒剤) _水稻 (手散布)						4.6	30.2	5.4	-	

1) : AOEL占有率 = 反復暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AOEL (mg/kg体重/日)  $\times$  100

2) : AAOEL占有率 = 急性暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AAOEL (mg/kg体重)  $\times$  100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1kgを用いている。

19. 登録番号21300：クサトツタ粒剤、登録番号22421：M I Cスラッシュ粒剤（ジメタメトリン0.20%・ピラゾレート4.0%・プレチラクロール1.5%・プロモプチド2.0%粒剤）

①製剤情報	登録番号	22421
	種類・名称	ジメタメトリン・ピラゾレート・プレチラクロール・プロモプチド粒剤(MICスラッシュ粒剤) (除草剤)
②評価対象有効成分	プレチラクロール	
③-1AOEL	0.085 (mg/kg体重/日)	
③-2AAOEL	設定不要	
④有効成分濃度・含有率	1.5 %	
⑤製剤の形態(製剤/散布液)	製剤:固体/散布時:固体	
⑥調製時の予測式	固形剤 (粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考		
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)	( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)				
1	移植水稻	3kg/10a/移植時/田植同時散布機で施用/一回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。										
2	移植水稻	3kg/10a/移植直後～ $\pi$ 2.5葉期ただし、移植後30日まで/湛水散布/2回	1	固形剤 (粒剤) _水 稲 (手散布)							4.6	30.2	5.4	-	

1) : AOEL占有率=反復暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)  $\div$ 1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$ AOEL (mg/kg体重/日)  $\times$ 100

2) : AAOEL占有率=急性暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)  $\div$ 1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$ AAOEL (mg/kg体重)  $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1kgを用いている。

20. 登録番号21587：協友農将軍フロアブル（ジメタメトリン0.5%・ピリプチカルブ10.0%・プレチラクロール5.0%水和剤）

①製剤情報	登録番号	21587
	種類・名称	ジメタメトリン・ピリプチカルブ・プレチラクロール水和剤(協友農将軍フロアブル) (除草剤)
②評価対象有効成分	プレチラクロール	
③-1AOEL	0.085 (mg/kg体重/日)	
③-2AAOEL	設定不要	
④有効成分濃度・含有率	5 %	
⑤製剤の形態(製剤/散布液)	製剤:液体/散布時:液体	
⑥調製時の予測式	フロアブル剤等	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

④経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考		
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL 1)	%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{gai/kg}$ 体重/日)			
1	移植水稻	500mL,0.5L/10a/移植時/田植同時散布機で施用/一回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								
2	移植水稻	500mL,0.5L/10a/植代後～移植7日前又は移植直後～ $\text{L}^{\text{t}}\text{E}1.5$ 葉期但し、移植後30日まで/原液湛水散布/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								
3	移植水稻	300mL,0.3L/10a/植代後～移植7日前又は移植直後～ $\text{L}^{\text{t}}\text{E}1$ 葉期但し、移植後30日まで/原液湛水散布/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								
4	移植水稻	300mL,0.3L/10a/移植直後～ $\text{L}^{\text{t}}\text{E}1$ 葉期但し、移植後30日前まで/水口施用/2回	1	—	部会決定のとおり、施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								
5	移植水稻	300mL,0.3L/10a/移植時/田植同時散布機で施用/一回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								

1) : AOEL占有率=反復暴露量 ( $\mu\text{gai/kg}$ 体重/日)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g/mg}$ )  $\div$  AOEL (mg/kg体重/日)  $\times$  100

2) : AAOEL占有率=急性暴露量 ( $\mu\text{gai/kg}$ 体重)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g/mg}$ )  $\div$  AAOEL (mg/kg体重)  $\times$  100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1kgを用いている。

2.1. 登録番号22138：エリジャンEW乳剤（プレチラクロール38.5%乳剤）

①製剤情報	登録番号	22138
	種類・名称	プレチラクロール乳剤(エリジャンEW乳剤) (除草剤)
②評価対象有効成分	プレチラクロール	
③-1AOEL	0.085 (mg/kg体重/日)	
③-2AAOEL	設定不要	
④有効成分濃度・含有率	38.5 %	
⑤製剤の形態(製剤/散布液)	製剤:液体/散布時:液体	
⑥調製時の予測式	乳剤等	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

④経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	25
希釈液	5	70

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時		反復	急性	%AOEL	%AAOEL		
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)	( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)	1)		2)
1	移植水稻	100mL,0.1L/10a/移植直後～ノビエ1葉期ただし、移植後30日まで/湛水散布、無人航空機による滴下/2回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								散布時:農薬用マスク、不浸透性防除衣	
2	移植水稻	100mL,0.5L/10a/移植直後～ノビエ1葉期ただし、移植後30日まで/湛水散布、無人航空機による滴下/2回	5	液剤_水稻(手散布)		不浸透性手袋	不浸透性防除衣	マスク1	不浸透性手袋	10.7	69.8	12.6	-	
3	移植水稻	100mL,0.1L/10a/移植直後～ノビエ1葉期ただし、移植後30日まで/水口施用/2回	1	—	部会決定のとおり、施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								調製時:不浸透性手袋、散布時:農薬用マスク、不浸透性防除衣	
4	移植水稻	100mL,0.5L/10a/移植直後～ノビエ1葉期ただし、移植後30日まで/水口施用/2回	5	散布による暴露なし(手散布)		不浸透性手袋	不浸透性防除衣	マスク1	不浸透性手袋	7.5	48.9	8.8	-	
5	移植水稻	100mL,0.5L/10a/移植時/田植同時散布機で施用/一回	5	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								散布時:農薬用マスク、不浸透性防除衣	

1) : AOEL占有率=反復暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AOEL (mg/kg体重/日)  $\times$  100

2) : AAOEL占有率=急性暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AAOEL (mg/kg体重)  $\times$  100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1kgを用いている。

2.2. 登録番号22142：クサナイト粒剤（ピラゾキシフェン6.0%・プレチラクロール1.5%粒剤）

①製剤情報	登録番号	22142
	種類・名称	ピラゾキシフェン・プレチラクロール粒剤（クサナイト粒剤）（除草剤）
②評価対象有効成分	プレチラクロール	
③-1AOEL	0.085 (mg/kg体重/日)	
③-2AAOEL	設定不要	
④有効成分濃度・含有率	1.5 %	
⑤製剤の形態(製剤/散布液)	製剤:固体/散布時:固体	
⑥調製時の予測式	固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

④経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考		
					調製時		散布時		反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)			
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)				( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)	
1	移植水稻	4kg/10a/移植直後～ピエ2葉期ただし、移植後30日まで/湛水散布/2回	1	固形剤（粒剤）_水稻（手散布）							6.2	40.2	7.3	-	

1) : AOEL占有率 = 反復暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AOEL (mg/kg体重/日)  $\times$  100

2) : AAOEL占有率 = 急性暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AAOEL (mg/kg体重)  $\times$  100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1kgを用いている。

23. 登録番号22694：マキシーMX1キログ粒剤（プレチラクロール4.2%・メソトリオン0.60%粒剤）

①製剤情報	登録番号	22694
	種類・名称	プレチラクロール・メソトリオン粒剤(マキシーMX1キログ粒剤) (除草剤)
②評価対象有効成分	プレチラクロール	
③-1AOEL	0.085 (mg/kg体重/日)	
③-2AAOEL	設定不要	
④有効成分濃度・含有率	4.2 %	
⑤製剤の形態(製剤/散布液)	製剤:固体/散布時:固体	
⑥調製時の予測式	固形剤 (粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

④経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時		反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)		
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)				( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)
1	移植水稻	1kg/10a/移植直後～1.5葉期ただし、移植後30日まで/灌水散布/2回	1	固形剤 (粒剤) _水稲 (手散布)		不浸透性手袋	不浸透性防除衣	マスク 1	不浸透性手袋	0.5	3	0.5	-	
2	移植水稻	1kg/10a/移植時/田植同時散布機で施用/一回	1	-	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								散布時:農薬用マスク、不浸透性防除衣	

1) : AOEL占有率 = 反復暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AOEL (mg/kg体重/日)  $\times$  100

2) : AAOEL占有率 = 急性暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AAOEL (mg/kg体重)  $\times$  100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1kgを用いている。

2 4. 登録番号23326：葉がくれ1キロ粒剤（シクロスルファミロン0.50%・プレチラクロール6.0%粒剤）

①製剤情報	登録番号	23326
	種類・名称	シクロスルファミロン・プレチラクロール粒剤(葉がくれ1キロ粒剤) (除草剤)
②評価対象有効成分	プレチラクロール	
③-1AOEL	0.085 (mg/kg体重/日)	
③-2AAOEL	設定不要	
④有効成分濃度・含有率	6 %	
⑤製剤の形態(製剤/散布液)	製剤:固体/散布時:固体	
⑥調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

④経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時		反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)		
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)				( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)
1	移植水稻	1kg/10a/移植直後～ $\text{t}^{\text{e}}$ 2葉期但し、移植後30日まで/湛水散布/2回	1	固形剤(粒剤) _水稻(手散布)		不浸透性手袋	不浸透性防除衣	マスク1	不浸透性手袋	0.6	4.2	0.8	-	

1) : AOEL占有率 = 反復暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AOEL (mg/kg体重/日)  $\times$  100

2) : AAOEL占有率 = 急性暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AAOEL (mg/kg体重)  $\times$  100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1kgを用いている。

25. 登録番号23327：かねつぐ1キロ粒剤（シクロスルファミロン0.40%・プレチラクロール4.0%粒剤）

①製剤情報	登録番号	23327
	種類・名称	シクロスルファミロン・プレチラクロール粒剤(かねつぐ1キロ粒剤) (除草剤)
②評価対象有効成分	プレチラクロール	
③-1AOEL	0.085 (mg/kg体重/日)	
③-2AAOEL	設定不要	
④有効成分濃度・含有率	4 %	
⑤製剤の形態(製剤/散布液)	製剤:固体/散布時:固体	
⑥調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

④経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時		反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)		
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)				( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)
1	移植水稻	1kg/10a/移植時/田植同時散布機で施用/一回	1	-	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。								散布時:農薬用マスク、不浸透性防除衣	
2	移植水稻	1kg/10a/移植直後〜1.5葉期但し、移植後30日まで/湛水散布/2回	1	固形剤(粒剤) 水稻(手散布)		不浸透性手袋	不浸透性防除衣	マスク1	不浸透性手袋	0.4	2.8	0.5	-	

1) : AOEL占有率 = 反復暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AOEL (mg/kg体重/日)  $\times$  100

2) : AAOEL占有率 = 急性暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AAOEL (mg/kg体重)  $\times$  100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1kgを用いている。

26. 登録番号23439：ロータスMX1キログ粒剤、登録番号23452：アピログロウMX1キログ粒剤（ピラゾスルフロンエチル0.30%・ピリフタリド1.5%・プレチラクロール4.5%・メソトリオン0.90%粒剤）

①製剤情報	登録番号	23439
	種類・名称	ピラゾスルフロンエチル・ピリフタリド・プレチラクロール・メソトリオン粒剤(ロータスMX1キログ粒剤) (除草剤)
②評価対象有効成分		プレチラクロール
③-1AOEL		0.085 (mg/kg体重/日)
③-2AAOEL		設定不要
④有効成分濃度・含有率		4.5 %
⑤製剤の形態(製剤/散布液)		製剤:固体/散布時:固体
⑥調製時の予測式		固形剤 (粉剤、微粒剤、粒剤等)

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時		反復 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)	急性 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)	%AOEL (1)	%AAOEL (2)		
					マスク	手袋	防護服	マスク						手袋
1	移植水稻	1kg/10a/移植直後～ヒト3葉期ただし、移植後30日まで/湛水散布/2回	1	固形剤 (粒剤) _水稻 (手散布)						4.6	30.2	5.4	-	
2	移植水稻	1kg/10a/移植時/田植同時散布機で施用/一回	1	-	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									
3	直播水稻	1kg/10a/稲1葉期～ヒト3葉期ただし、収穫90日前まで/湛水散布/2回	1	固形剤 (粒剤) _水稻 (手散布)						4.6	30.2	5.4	-	

1) : AOEL占有率 = 反復暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AOEL (mg/kg体重/日)  $\times$  100

2) : AAOEL占有率 = 急性暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AAOEL (mg/kg体重)  $\times$  100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1kgを用いている。

2.7. 登録番号23440：ロータスMXジャンボ、登録番号23453：アピログロウMXジャンボ（ピラゾスルフロンエチル0.75%・ピリフタリド3.75%・プレチラクロール11.25%・メソトリオン2.25%粒剤）

①製剤情報	登録番号	23440
	種類・名称	ピラゾスルフロンエチル・ピリフタリド・プレチラクロール・メソトリオン粒剤(ロータスMXジャンボ) (除草剤)
②評価対象有効成分		プレチラクロール
③-1AOEL		0.085 (mg/kg体重/日)
③-2AAOEL		設定不要
④有効成分濃度・含有率		11.25 %
⑤製剤の形態(製剤/散布液)		製剤:固体/散布時:固体
⑥調製時の予測式		固形剤 (粉剤、微粒剤、粒剤等)

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考		
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL	%AAOEL
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)		( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)	1)
1	移植水稻	0.4kg/10a/移植後3日～ノビエ3葉期ただし、移植後30日まで/水田に小包装 (パック) のまま投げ入れる。/2回	1	—	本剤は水溶性バック入り製剤に該当し、通常の使用方法では使用者への暴露のおそれがない。								
2	直播水稻	0.4kg/10a/稲1葉期～ノビエ3葉期ただし、収穫90日前まで/水田に小包装 (パック) のまま投げ入れる。/2回	1	—	本剤は水溶性バック入り製剤に該当し、通常の使用方法では使用者への暴露のおそれがない。								

1) : AOEL占有率 = 反復暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AOEL (mg/kg体重/日)  $\times$  100

2) : AAOEL占有率 = 急性暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AAOEL (mg/kg体重)  $\times$  100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1kgを用いている。

28. 登録番号23588：かねつぐーラジカルジャンボ（シクロスルファミロン1.67%・プレチラクロール20.0%粒剤）

①製剤情報	登録番号	23588
	種類・名称	シクロスルファミロン・プレチラクロール粒剤(かねつぐーラジカルジャンボ) (除草剤)
②評価対象有効成分	プレチラクロール	
③-1AOEL	0.085 (mg/kg体重/日)	
③-2AAOEL	設定不要	
④有効成分濃度・含有率	20 %	
⑤製剤の形態(製剤/散布液)	製剤:固体/散布時:固体	
⑥調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり						備考		
					調製時		散布時		反復	急性		%AOEL 1)	%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)			
1	移植水稻	0.3kg/10a/移植直後～ノビエ2葉期但し、移植後30日まで/ 水田に小包装(パック)のまま投げ入れる/2回	1	—	本剤は水溶性パック入り製剤に該当し、通常の使用方法では使用者への暴露のおそれがない。								

1) : AOEL占有率 = 反復暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AOEL (mg/kg体重/日)  $\times$  100

2) : AAOEL占有率 = 急性暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AAOEL (mg/kg体重)  $\times$  100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1kgを用いている。

29. 登録番号23613：OATシェリフ1キロ粒剤（イマズスルフロン0.90%・シハロホップブチル1.8%・ジメタメトリン0.60%・プレチラクロール4.5%粒剤）

①製剤情報	登録番号	23613
	種類・名称	イマズスルフロン・シハロホップブチル・ジメタメトリン・プレチラクロール粒剤(OATシェリフ1キロ粒剤) (除草剤)
②評価対象有効成分		プレチラクロール
③-1AOEL		0.085 (mg/kg体重/日)
③-2AAOEL		設定不要
④有効成分濃度・含有率		4.5 %
⑤製剤の形態(製剤/散布液)		製剤:固体/散布時:固体
⑥調製時の予測式		固形剤 (粉剤、微粒剤、粒剤等)

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考		
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL		%AAOEL	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)	( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)	1)		2)	
1	移植水稻	1kg/10a/移植後5日~ $\text{H}^{\circ}\text{E}3$ 葉期ただし、移植後30日まで/湛水散布/2回	1	固形剤 (粒剤) _水稻 (手散布)							4.6	30.2	5.4	-	

1) : AOEL占有率=反復暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AOEL (mg/kg体重/日)  $\times$  100

2) : AAOEL占有率=急性暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AAOEL (mg/kg体重)  $\times$  100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1kgを用いている。

30. 登録番号24361：アピログロウMXエアーク剤（ピラゾスルフロンエチル0.75%・ピリフタリド3.75%・プレチラクロール11.25%・メソトリオン2.25%粒剤）

①製剤情報	登録番号	24361
	種類・名称	ピラゾスルフロンエチル・ピリフタリド・プレチラクロール・メソトリオン粒剤(アピログロウMXエアーク) (除草剤)
②評価対象有効成分		プレチラクロール
③-1AOEL		0.085 (mg/kg体重/日)
③-2AAOEL		設定不要
④有効成分濃度・含有率		11.25 %
⑤製剤の形態(製剤/散布液)		製剤:固体/散布時:固体
⑥調製時の予測式		固形剤 (粉剤、微粒剤、粒剤等)

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑩経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時		反復 ( $\mu\text{gai/kg}$ 体重/日)	急性 ( $\mu\text{gai/kg}$ 体重)	%AOEL (1)	%AAOEL (2)		
					マスク	手袋	防護服	マスク						手袋
1	移植水稻	0.4kg/10a/移植後3日～ノビエ3葉期ただし、移植後30日まで/湛水散布、水口施用又は無人航空機による散布/2回	1	固形剤 (粒剤) _水稻 (手散布)		不浸透性手袋	不浸透性防除衣	マスク 1	不浸透性手袋	0.5	3.2	0.6	-	
2	直播水稻	0.4kg/10a/稲1葉期～ノビエ3葉期ただし、収穫90日前まで/湛水散布、水口施用又は無人航空機による散布/2回	1	固形剤 (粒剤) _水稻 (手散布)		不浸透性手袋	不浸透性防除衣	マスク 1	不浸透性手袋	0.5	3.2	0.6	-	

1): AOEL占有率=反復暴露量 ( $\mu\text{gai/kg}$ 体重/日)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g/mg}$ )  $\div$  AOEL (mg/kg体重/日)  $\times$  100

2): AAOEL占有率=急性暴露量 ( $\mu\text{gai/kg}$ 体重)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g/mg}$ )  $\div$  AAOEL (mg/kg体重)  $\times$  100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1kgを用いている。

3 1. 登録番号24651：メガオスMX1キログ粒剤（ピリフタリド1.2%・プレチラクロール4.6%・ベンスルフロメチル0.51%・メソトリオン0.90%粒剤）

①製剤情報	登録番号	24651
	種類・名称	ピリフタリド・プレチラクロール・ベンスルフロメチル・メソトリオン粒剤(メガオスMX1キログ粒剤) (除草剤)
②評価対象有効成分		プレチラクロール
③-1AOEL		0.085 (mg/kg体重/日)
③-2AAOEL		設定不要
④有効成分濃度・含有率		4.6 %
⑤製剤の形態(製剤/散布液)		製剤:固体/散布時:固体
⑥調製時の予測式		固形剤 (粉剤、微粒剤、粒剤等)

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

④経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量/使用時期/使用方法/評価に用いた使用回数)	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時		反復 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)	急性 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)	%AOEL (1)	%AAOEL (2)		
					マスク	手袋	防護服	マスク						手袋
1	移植水稻	1kg/10a/移植時/田植同時散布機で施用/一回	1	—	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									
2	移植水稻	1kg/10a/移植直後～ヒト3葉期ただし、移植後30日まで/湛水散布/2回	1	固形剤 (粒剤) _水稻 (手散布)						4.7	30.9	5.6	-	
3	直播水稻	1kg/10a/稲1葉期～ヒト2.5葉期ただし、収穫90日前まで/湛水散布/2回	1	固形剤 (粒剤) _水稻 (手散布)						4.7	30.9	5.6	-	

1) : AOEL占有率 = 反復暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重/日)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AOEL (mg/kg体重/日)  $\times$  100

2) : AAOEL占有率 = 急性暴露量 ( $\mu\text{gai}/\text{kg}$ 体重)  $\div$  1000 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ )  $\div$  AAOEL (mg/kg体重)  $\times$  100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1kgを用いている。